

* قَالَ فَمَا خَطْبُكُمْ أَيُّهَا الْمُرْسَلُونَ ﴿٣١﴾ قَالُوا إِنَّا أُرْسِلْنَا إِلَىٰ قَوْمٍ
 مُّجْرِمِينَ ﴿٣٢﴾ لِنُرْسِلَ عَلَيْهِمْ حِجَابَةً مِّن طِينٍ ﴿٣٣﴾ مُّسَوِّمَةً عِنْدَ رِئِكَ
 لِّلْمُسْرِفِينَ ﴿٣٤﴾ فَأَخْرَجْنَا مَن كَانَ فِيهَا مِّنَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٣٥﴾ فَمَا وَجَدْنَا
 فِيهَا غَيْرَ بَيْتٍ مِّنَ الْمُسْلِمِينَ ﴿٣٦﴾ وَتَرَكْنَا فِيهَا آيَةً لِّلَّذِينَ يَخَافُونَ
 الْعَذَابَ الْأَلِيمَ ﴿٣٧﴾ وَفِي مَوْسَىٰ إِذْ أَرْسَلْنَا إِلَىٰ فِرْعَوْنَ بِسُلْطَانٍ
 مُّبِينٍ ﴿٣٨﴾ فَقَوْلَىٰ بُرْكِيئِهِ وَقَالَ سِحْرٌ أَوْ يَحْجُونَ ﴿٣٩﴾ فَأَخَذْنَاهُ وَجُودَهُ
 فَنَبَذْنَاهُ فِي الْيَمِّ وَهُوَ مُلِيمٌ ﴿٤٠﴾ وَفِي عَادٍ إِذْ أَرْسَلْنَا عَلَيْهِمُ الرِّيحَ
 الْعَاقِبِيَةَ ﴿٤١﴾ مَا تَذَرُ مِن شَيْءٍ أَتَتْ عَلَيْهِ إِلَّا جَعَلَتْهُ كَالرِّيمِ ﴿٤٢﴾
 وَفِي ثَمُودَ إِذْ قِيلَ لَهُمْ تَمَتَّعُوا حَتَّىٰ حِينٍ ﴿٤٣﴾ فَعْتَوْا عَنْ أَمْرِ رَبِّهِمْ
 فَأَخَذْتَهُمُ الصَّيْقَةَ وَهُمْ يَنْظُرُونَ ﴿٤٤﴾ فَمَا اسْتَطَعُوا مِن قِيَامٍ
 وَمَا كَانُوا مُتَّصِرِينَ ﴿٤٥﴾ وَقَوْمَ نُوحٍ مِّن قَبْلُ إِنَّهُمْ كَانُوا قَوْمًا
 فَاسِقِينَ ﴿٤٦﴾ وَالسَّمَاءَ بَيْنَ يَدَيْهَا يُبَاسِدُ وَإِنَّا لَمُوسِعُونَ ﴿٤٧﴾ وَالْأَرْضَ
 فَرَشْنَاهَا فَنِعْمَ الْمُهَيَّدُونَ ﴿٤٨﴾ وَمِن كُلِّ شَيْءٍ خَلَقْنَا وَجِينَ
 لَعَلَّكُمْ تَذَكَّرُونَ ﴿٤٩﴾ فَفَرُّوْا إِلَى اللَّهِ إِنِّي لَكُم مِّنْهُ نَذِيرٌ مُّبِينٌ ﴿٥٠﴾
 وَلَا تَجْعَلُوا مَعَ اللَّهِ إِلَهًا آخَرَ إِنِّي لَكُم مِّنْهُ نَذِيرٌ مُّبِينٌ ﴿٥١﴾

31 イブラーヒームが天使に言った。「あなたたちは何者ですか。何がお望みでしょうか。」

32 天使たちは応えて言った。「私たちは醜い罪を犯し続けている民へアッラーによって遣わされた者です。」

33 彼らに土からできた激しい石を投げつけるためです。

34 イブラーヒームよ、それはあなたの主の御許ですすでに知られていることで、アッラーの定めた境界線を越え、ひどい不信仰と罪に陥った者に送られるものなのです。」

35 そうしてわれらは、ルートの民のうち信者を救い出し、罪人がこうむる懲罰の巻き添えを食わないようにした。

36 だが、彼らの村には、ムスリムの家族が一家族しかなかった。それはルート(平安あれ)の家族である。

37 ルートの民の村に、懲罰が降りかかった事実を示す痕跡をわれらは残した。痛ましい懲罰を恐れる者が教訓を得て、彼ら(滅ぼされたルートの民)と同じ行いをしないようにするためである。

38 また、われらがムーサーをフィルアンのもとへ数々の明らかな証と共に遣わしたことにも、痛ましい懲罰を恐れる者にとっての印がある。

39 だが、フィルアンはあえて己の権勢と軍勢をもって真理に背き、ムーサーについて言った。「彼は人心を惑わす魔術師か、自分で何を言っているのかわかっていない狂人だ。」

40 われらが彼とその軍勢全てを海に投げ込むと、彼らは溺れ死んだ。フィルアンは真理を拒み、己を神と主張したことに相応しい責め苦を受けるだろう。

41 また、われらがフードの民アードに雨も接ぎ木も祝福も運ぶことのない風を遣わしたことにも、痛ましい懲罰を恐れる者にとっての印がある。

42 その風は命や財産など、何であれ触れば引きちぎられた服のように破壊させる。

43 また、サーリフの民サムードに、「寿命が来てしまう前に、人生を楽しむがよい」と言われたことにも、痛ましい懲罰を恐れる者にとっての印がある。

44 彼らは主の命令を傲慢に軽んじ、信仰や忠誠を軽んじたため、懲罰の到来を待つ中で突然それに襲われた。ちょうど三日前に懲罰に襲われるのを約束されたところであった。

45 彼らには懲罰から身を守ることはできず、遮る力もなかった。

46 これらの者以前にも、われらはヌーフの民を溺死によって滅ぼした。彼らはアッラーの命に従おうとしない民であったため、懲罰を受けるに相応しい身となったのである。

47 諸天をわれらは打ち立て、力によってその構築を完全なものとした。われらはその両端をさらに広げよう。

48 そして大地をわれらはその住人にとって寝床のように平らにした。彼らのためにわれらがそれを平らにしたのは、素晴らしい恩恵である。

49 オスとメス、天と地、陸と海のようにわれらは全てのものをつがいとして創造した。きっとあなたたちは全てのものをつがいとしたアッラーの唯一性を思い起こし、かれの力を思い起こすだろう。

50 「アッラーに忠実であり、背かないことで、かれの懲罰から報復へと逃げてください。人々よ、私はあなたたちにとってかれの懲罰を明白に警告する警告者です。」

51 アッラーの他に何か別のものを崇めてはなりません。私はあなたたちにとってかれの懲罰を明白に警告する警告者です。」

本諸節の功德:

- イーマーン(内面的な信仰)は、イスラーム(表面的な信仰)よりもレベルが高い。
- 真理を拒む民をアッラーが滅ぼされたことは、全人類にとっての教訓である。
- アッラーへの恐れには、善行によって至高のかれのもとへ逃げるのが求められるのであって、かれから逃げるのではない。

كَذَلِكَ مَا آتَى الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ مِنْ رَسُولٍ إِلَّا قَالُوا سَاحِرٌ أَوْ مُجْنُونٌ ﴿٥٢﴾
 أَنْتَ أَتَا صَوَابَهُ بَلْ هُمْ قَوْمٌ طَٰغُونَ ﴿٥٣﴾ فَقَوْلَ عَنْهُمْ فَمَا أَنْتَ
 بِمَلُومٍ ﴿٥٤﴾ وَذَكَرَ فَإِنَّ الذِّكْرَى تَنْفَعُ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٥٥﴾ وَمَا خَلَقْتُ
 الْجِنَّ وَالْإِنْسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ ﴿٥٦﴾ مَا أُرِيدُ مِنْهُمْ مِنْ رِزْقٍ وَمَا أُرِيدُ
 أَنْ يُطْعَمُوا إِنَّ اللَّهَ هُوَ الرَّزَاقُ ذُو الْقُوَّةِ الْمَتِينُ ﴿٥٧﴾
 فَإِنَّ لِلَّذِينَ ظَلَمُوا ذُنُوبًا مِثْلَ ذُنُوبِ أَصْحَابِهِمْ فَلَا يَسْتَعْجِلُونَ
 ﴿٥٨﴾ فَوَيْلٌ لِلَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ يَوْمِهِمُ الَّذِي يُوعَدُونَ ﴿٥٩﴾

سُورَةُ الطُّورِ ﴿٥٢﴾

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
 وَالطُّورِ ﴿١﴾ وَكِتَابٍ مَسْطُورٍ ﴿٢﴾ فِي رَقٍ مَنشُورٍ ﴿٣﴾ وَاللَّيْلِ
 الْمَعْمُورِ ﴿٤﴾ وَالسَّجْفِ الْمَرْفُوعِ ﴿٥﴾ وَالْبَحْرِ الْمَسْجُورِ ﴿٦﴾ إِنَّ
 عَذَابَ رَبِّكَ لَوَاقِعٌ ﴿٧﴾ مَالَهُ مِنْ دَافِعٍ ﴿٨﴾ يَوْمَ تَمُورُ السَّمَاءُ
 مَوْرًا ﴿٩﴾ وَتَسِيرُ الْجِبَالُ سَيْرًا ﴿١٠﴾ فَوَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِلْمُكَذِّبِينَ
 ﴿١١﴾ الَّذِينَ هُمْ فِي حَوْضٍ يَلْعَبُونَ ﴿١٢﴾ يَوْمَ يُدْعَوْنَ إِلَى نَارٍ
 جَهَنَّمَ دَعَاً ﴿١٣﴾ هَذِهِ النَّارُ الَّتِي كُنْتُمْ بِهَا تُكَذِّبُونَ ﴿١٤﴾

⑤② マッカの民が真理を拒んだように、以前の共同体も真理を拒んだ。アッラーの御許より使徒がやって来る度に、「魔術師」や「狂人」呼ばわりしたのである。
 ⑤③ 過去の不信仰者と後代の不信仰者が使徒を拒む口裏合わせをしたのだろうか。いや、規を超えた振る舞いが彼らの共通点である。
 ⑤④ 使徒よ、これらの真理を拒む者から遠ざかれ。あなたが責めを負うことはない。あなたは伝えるべきことをしかと伝えたのである。
 ⑤⑤ 彼らから遠ざかるからといって、啓発と訓戒をやめてはならない。彼らを啓発し続け、訓戒を与え続けよ。訓戒はアッラーを信じる者のためになる。
 ⑤⑥ われがジンと人間を創造したのは、われにのみ仕えさせるためである。われに何か別のものを並べ立てて崇めさせるためではなかった。
 ⑤⑦ われは彼ら被造物から糧が欲しいわけでも、食べさせてもらいたいわけでもない。
 ⑤⑧ 本当にアッラーこそが僕たちに糧を与える御方なのである。全ての存在がかれの糧を必要とし、全てのジンや人間が至高なるかれに従う、強靱な無敵の御方であられる。
 ⑤⑨ だから使徒よ、あなたを否定して己を欺く者には、以前の同類がそうだったように懲罰が待ち受けている。その時は定められており、彼らが急かしても無駄である。
 ⑥① アッラーを信じようとせず、使徒を否定した者には、懲罰の到来が約束されている審判の日に破滅と損失があるだろう。

52. 山章(アッ・トール)
マッカ啓示

本章の趣旨:
 数々の明白な論拠と証拠によって、預言者(アッラーの祝福と平安を)を嘘つき呼ばわりする者が投げかける疑念

説明:

- ① アッラーはムーサーに話しかける場とされた山にかけて誓われた。
- ② それから文節に区切られた書にかけて誓われた。
- ③ 啓示の書のように平らに開かれた紙の書である。
- ④ また、天使たちがアッラーにお仕えするために天空で巡礼する館にかけて誓われた。
- ⑤ また、大地の天井とされた高い空にかけて誓われた。
- ⑥ また、水に満ちた海にかけて誓われた。
- ⑦ 使徒よ、あなたの主の懲罰は必ず不信仰者に下される。
- ⑧ 彼らのためにかれを止められる者はおらず、懲罰から彼らを守ってくれる者はいない。
- ⑨ 空が審判の日を前にどよめき動く日、
- ⑩ 山という山が元の場所から動く日、
- ⑪ その日真理を拒んだ者は、アッラーが不信仰者に約束された懲罰によって破滅と損失をこうむる。
- ⑫ 虚偽に夢中で復活も蘇生も気に留めようとしなかった者である。
- ⑬ 火獄の炎に乱暴かつ激しく引き立てられて押し入れられ、
- ⑭ 彼らを非難する声上がるのである。「この炎こそ、あなたたちが使徒の警告を無視して否定していたものである。」

本諸節の功德:

- たとえ手段や人の種別、場所や時代は違って、不信仰はそれだけで一つの宗教である。
- 使徒はメッセージを確かに伝えた、というアッラーの証言。
- ジンと人間の創造に込められた英知とは、あらゆる形式でアッラーにお仕えするのを実現することである。
- 審判の日には、この世界の様相は変わってしまう。

أَفِصْحَرْ هَذَا أَمْ أَنْتُمْ لَا تَبْصُرُونَ ﴿٥٥﴾ أَصَلَوْهَا فَأَصْبِرُوا
 أَوْ لَا تَصْبِرُوا سَوَاءٌ عَلَيْكُمْ إِنَّمَا تُحْزَنُونَ مَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٥٦﴾
 إِنَّ الْمُتَّقِينَ فِي جَنَّاتٍ وَنَعِيمٍ ﴿٥٧﴾ فَكِهِينَ بِمَاءٍ أَنْهَمَ رَبُّهُمْ
 وَوَقَّاهُمْ رَبُّهُمْ عَذَابَ الْجَحِيمِ ﴿٥٨﴾ كَلُوا وَأَشْرَبُوا هَنِيئًا بِمَا
 كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٥٩﴾ مُتَّكِنِينَ عَلَى سُرُرٍ مَّصْفُوفَةٍ وَرَوَّحًا لَهُمْ
 بُحُورٍ عَيْنٍ ﴿٦٠﴾ وَالَّذِينَ آمَنُوا وَاتَّبَعَتْهُمْ ذُرِّيَّتُهُمْ بِإِيمَانٍ آخَفْنَا
 بِهِمْ ذُرِّيَّتَهُمْ وَمَا أَلْتَنَاهُمْ مِنْ عَمَلِهِمْ مِنْ شَيْءٍ كُلُّ امْرِئٍ بِمَا
 كَسَبَ رَهِينٌ ﴿٦١﴾ وَأَمَدَدْنَاهُمْ بِفِكَهَةٍ وَحَمِيمٍ مِّمَّا يَشْتَهُونَ ﴿٦٢﴾
 يَتَنَزَّعُونَ فِيهَا كَأَسَا لَا لَغْوٌ فِيهَا وَلَا تَأْتِيهِمْ ﴿٦٣﴾ وَيَطُوفُ عَلَيْهِمْ
 غِلْمَانٌ لَهُمْ كَأَنَّهُمْ لُؤْلُؤٌ مَّكْنُونٌ ﴿٦٤﴾ وَأَقْبَلَ بَعْضُهُمْ عَلَى
 بَعْضٍ يَتَسَاءَلُونَ ﴿٦٥﴾ قَالُوا إِنَّا كُنَّا قَبْلَ فِي أَهْلِنَا مُشْفِقِينَ
 ﴿٦٦﴾ فَمَنْ أَلَّاهُ عَابِدًا وَوَقَّانَا عَذَابَ السَّمُورِ ﴿٦٧﴾ إِنَّا كُنَّا
 مِنْ قَبْلُ نَدْعُوهُ إِنَّهُ هُوَ الْبَرُّ الرَّحِيمُ ﴿٦٨﴾ فَذَكَرْنَا أَنْتَ بِنِعْمَتِ
 رَبِّكَ بِكَاهِنٍ وَلَا مَجْنُونٍ ﴿٦٩﴾ أَمْ يَقُولُونَ شَاعِرٌ نَتَرَبَّصُ بِهِ رَيْبَ
 الْمُنُونِ ﴿٧٠﴾ قُلْ تَرَبَّصُوا فَإِنِّي مَعَكُمْ مِنَ الْمُنْتَرِبِينَ ﴿٧١﴾

الجزء

- 15) あなたたちが宛がわれたこの罰は果たして魔術だろうか、それともあなたたちは目が見えないのか。
- 16) この炎の熱さを味わい、苦しむがよい。熱さの苦しみに耐えても耐えなくともよい。あなたたちが辛抱しようがしまいが、生前あなたたちがしていた不信仰と罪に対しての報いを今日は受けるだけである。こうして真理を拒む者への報いを述べられた後、アッラーは誠実で敬虔な者への報いを述べるために仰せられた。
- 17) ご命令を果たし、禁止を避けることで主を意識する者には、天国で尽きることのない偉大な恩恵がある。
- 18) 彼らはアッラーに与えられた食べ物や飲み物、結婚相手などの甘美さを楽しみ、燃え盛る懲罰から至高のアッラーに守ってもらえる。使徒よ、言いなさい。「人々よ、私の主が啓示してくださったことを基に、アッラーの懲罰によって皆さんに恐ろしい知らせをお伝えします。」だが、真理の聞こえない人は、アッラーの懲罰で脅かされてもその呼びかけを聞くことはできない。
- 19) 彼らにはこう言われるのである。「好きなだけ食べ、かつ飲んで祝福を受けよ。飲み食いしてどこか悪くなるなど心配することはない。あなたたちがなした生前の善行への報奨である。」
- 20) 彼らは整えられた寝台の上に背をもたれかけ、互いに向かい合いながら座っている。また、われらは彼らを麗しい目をした色白の女性と結婚させた。
- 21) 信じてその子供たちも信仰において彼らに従った者は、たとえその子供たちが彼らほどの善行に達していなくても、彼らが喜ぶようにその子供たちも同じところに付き従わせるだろう。だが彼らの行いの報奨が減るわけではない。全ての人間は、自らが行った悪しき事で留め置かれ、他の誰かが肩代わりすることはできないのである。
- 22) われらは天国の民に様々な種類の果物を与え、彼らが欲するままに肉を与えた。
- 23) 天国では、酔うことで虚言や罪などのこの世で起こることは無縁の酒杯が与えられる。
- 24) 彼らのもとは、貝の中の真珠のように色白で透き通った肌をした少年が世話をするために立ち回る。
- 25) 天国の民はお互いに近寄り、生前の状態について尋ね合うのだ。
- 26) そして答えるだろう。「我々は生前家族と共にいながらも、アッラーの罰を恐れていました」と。
- 27) 「そうしてアッラーが我々にイスラムへのお導きをお恵みくださり、恐ろしく熱い懲罰からお救いくださったのです。」
- 28) 「我々は生前からかれを崇め、火獄の罰からお救いくださいと祈っていました。本当にかれこそは約束をしかと守られる誠実な御方であり、慈悲深い御方。その善良さとお慈悲により、我々を信仰へとお導きくださり、天国に入れてくださり、火獄から遠ざけてくださいました。」
- 29) だから使徒よ、クルアーンによって思い起こさせるがよい。あなたは信仰と理性をアッラーに恵まれているのであって、ジンに操られた修道士でもなければ、狂人でもない。
- 30) あるいはこれらの真理を否定する者は言うのか。「ムハンマドは使徒ではなく、詩人に過ぎない。我々は彼に死が訪れ、楽になるのを待ちわびているところだ。」
- 31) 使徒よ、彼らに言うてやるがよい。「私の死を待つとよいでしょう。私はあなたたちが私を否定したことで懲罰をこうむるのを待つばかりです」と。

本諸節の功德:

- 皆にとつての歓待として喜びが完全なものとなるよう、親子はたとえその一部の者の行いが至らないものであったとしても、天国で同じ場所に集められる。
- あの世の酒は飲んで嫌な影響を引き起こさない。
- この世で主を恐れる者には、あの世で安心が与えられる。

أَمْ تَأْمُرُهُمْ أَحْلَمُهُمْ بِهَذَا أَمْ هُمْ قَوْمٌ طَاعُونَ ﴿٣٦﴾ أَمْ يَقُولُونَ نَقَوْلَهُ
 بَلْ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٣٧﴾ فَلْيَأْتُوا بِحَدِيثٍ مِثْلِهِ إِنْ كَانُوا صَادِقِينَ
 ﴿٣٨﴾ أَمْ خُلِقُوا مِنْ غَيْرِ شَيْءٍ أَمْ هُمُ الْخَالِقُونَ ﴿٣٩﴾ أَمْ خَلَقُوا
 السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بَلْ لَا يُوقِنُونَ ﴿٤٠﴾ أَمْ عِنْدَهُمْ خَزَائِنُ رَبِّكَ
 أَمْ هُمُ الْمُصَيِّطُونَ ﴿٤١﴾ أَمْ لَهُمْ سُلَّمٌ يَسْتَمِعُونَ فِيهِ فَلْيَأْتِ
 مُسْتَمِعَهُمْ بِسُلْطَانٍ مُبِينٍ ﴿٤٢﴾ أَمْ لَهُ الْبَنَاتُ وَلَكُمُ الْبَنُونَ ﴿٤٣﴾
 أَمْ نَسْتَأْذَنُكُمْ إِجْرًا فَهُمْ مِنْ مَعْرَمٍ مَثْقُولُونَ ﴿٤٤﴾ أَمْ عِنْدَهُمُ الْغَيْبُ
 فَهُمْ يَكْتُمُونَ ﴿٤٥﴾ أَمْ يُرِيدُونَ كَيْدًا فَالَّذِينَ كَفَرُوا هُمُ الْمَكِيدُونَ ﴿٤٦﴾
 أَمْ لَهُمْ إِلَهٌ غَيْرُ اللَّهِ سُبْحَانَ اللَّهِ عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿٤٧﴾ وَإِنْ يَرَوْا كِسْفًا
 مِنَ السَّمَاءِ سَاقِطًا يَقُولُوا سَحَابٌ مَرْكُومٌ ﴿٤٨﴾ فَذَرَهُمْ حَتَّى يَلْتَقُوا
 يَوْمَهُمُ الَّذِي فِيهِ يُصْعَقُونَ ﴿٤٩﴾ يَوْمٌ لَا يَبْغِي عَنْهُمْ كَيْدُهُمْ شَيْئًا
 وَلَا هُمْ يُبْصِرُونَ ﴿٥٠﴾ وَإِنَّ لِلَّذِينَ ظَلَمُوا عَذَابًا دُونَ ذَلِكَ وَلَكِنَّ
 أَكْثَرَهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٥١﴾ وَأَصْبِرْ لِحُكْمِ رَبِّكَ فَإِنَّكَ بِأَعْيُنِنَا وَسَبِّحْ
 بِحَمْدِ رَبِّكَ حِينَ تَقُومُ ﴿٥٢﴾ وَمِنَ اللَّيْلِ فَسَبِّحْهُ وَإِدْبَرَ النُّجُومِ ﴿٥٣﴾

- ③② 果たして彼らの理性が「彼は道士や狂人だ」と言わせ、一人の人格に合わないものを合わせようというのか。いや、彼らは越えてはならない一線を越える者であり、法にも理性にも立ち返ろうとはしないのである。
- ③③ あるいは、「ムハンマドがこのクルアーンを創作したのであって、啓示が下されたわけではない」とでも言うのか。彼が創作したわけではない。だが彼らは傲慢にも彼を信じようとはしないために「彼がそれを創作した」と言うのである。
- ③④ 万が一にもそれが彼によって創作されたものだという彼らの主張が正しいのならば、似たような話をもたらしてみよ。
- ③⑤ あるいは創造主なしに彼らは創造されたのか。または自分で自分を創造したのか。創造者なしには被造物はありえず、つくられたものが(無から有)をつくることなどできないにもかかわらず、なぜ彼らは己の創造主を崇めようとはしないのか。
- ③⑥ あるいは彼らが天地をつくったというのか。だが彼らはアッラーが創造主であることに確信が持てないのである。もし確信があったなら、かれだけを崇め、かれの使徒を信じただろう。
- ③⑦ あるいは彼らの元には糧のつまった主の宝庫があり、誰であれ好きな者に糧を与えられるのか。さらに預言者性も操ることができてお望みの者に与奪することができるのか。あるいは彼らが思い通りに(万物を)支配し操ることができるのか。
- ③⑧ あるいは彼らには空まで上がって行くことのできる階段があってアッラーの啓示に聞き入り、彼らが正しいと啓示されたのか。あなたたちが正しいという主張を裏付けるような明らかな証と共に、その啓示を聞いたという者を連れてきてみよ。
- ③⑨ あるいは、かれにはあなたたちが嫌う娘があり、あなた自身にはあなたたちが好む息子があるというのか。
- ④⑩ あるいは使徒よ、あなたが主について伝えることで彼らに報奨を求めるのか。そんなことをすれば彼らは背負

いきれない責任を負うことになるだろう。

- ④① あるいは彼らの元には幽玄界の知識があって、そこから知り得たことを人々に書き知らせ、好きなように伝えるというのか。
- ④② あるいはこれらの否定者はあなたとあなたの宗教に対して策略を望むのか。アッラーを信頼せよ。アッラーとその使徒を信じない者こそが策略に嵌められているのであり、あなたではない。
- ④③ あるいは彼らにはアッラーの他に正しく崇められる者があるのか。アッラーは彼らが等しく並べる存在とは無関係であり、かけ離れた無欠で清浄な御方であられる。これまでに挙げられたことは全てあり得ず、想定外のことである。
- ④④ もし空からそのかけらが落ちてきたら彼らは言うだろう。「これはいつものように雲が重なっているだけのこと」。彼らが訓戒を得ることはなく、信じることはないのである。
- ④⑤ 使徒よ、頑固に拒み続ける彼らが懲罰を味わうことになる審判の日に出くわすまで、放っておくがよい。
- ④⑥ 彼らの策略が多かれ少なかれ少しも役に立たない日、彼らが懲罰からの救済の助けを得られることはないのである。
- ④⑦ 多神教信仰と罪を犯すことで己を欺いた者には、あの世での懲罰の前に懲罰がある。この世での殺害と捕虜に加え、この世とあの世の間の世界では墓の中での懲罰である。しかしながら彼らのほとんどはそれを知らず、不信仰のままなのである。こうして多神教徒のありかたが間違っていることを明らかにされると、アッラーは使徒に彼らのことで悩むことはなく、彼らの拒絶に耐え忍ぶよう命じて仰せられた。
- ④⑧ 使徒よ、あなたの主の定めとその教えの決まり事に耐え忍べ。あなたはわれらに見守られているのである。眠りから目覚めたなら、あなたの主を賛美せよ。
- ④⑨ また、夜間にもあなたの主を賛美し、礼拝を捧げよ。それから日中の光で星が消えゆく早朝の礼拝もしかと捧げよ。

本諸節の功德:

- 一線を越えることは、道を踏み誤る原因の一つである。
- 宗教的真理を裏付けるうえでの理性的な議論の重要性。
- バルザフ(この世で死を迎えてから最後の審判によって永遠のあの世が始まるまでの中間の世界)の懲罰が確実にあるということ。

本章の趣旨:

啓示はアッラーからのものであり、間違いないものであることの確認

説明:

- ① 至高の**かれ**は墮ち行く星にかけて仰せられる。
- ② アッラーの使徒ムハンマドは導きの道から逸れたわけではなく、迷わせられたわけでもない。正しく導かれた者である。
- ③ このクルアーンを己の我欲に従って語ることはなく、
- ④ このクルアーンはジブリールを通してアッラーが彼(ムハンマド)に下された啓示に他ならないのである。
- ⑤ 彼に教えたのは、強靱な力の持ち主ジブリールである。
- ⑥ ジブリールは美しい姿をしており、預言者の前でアッラーに創造されたありのままの姿を見せた。
- ⑦ ジブリールは空高くあったが、
- ⑧ 預言者に近づき、さらに近さを増してきた。
- ⑨ 彼の近さは弓形二つほどか、それよりもさらに近いものであった。
- ⑩ そうしてジブリールは、アッラーの僕ムハンマドに啓示を下したのである。
- ⑪ ムハンマドの心はその目が見たものについて嘘をついてはいない。
- ⑫ 多神教徒よ、夜の旅でアッラーが彼に見せたものについて、議論するのだろうか。
- ⑬ ムハンマドはジブリールを夜の旅においても一度ありのままの姿で見たのである。
- ⑭ それは遙かなるスイドラという第7天にある巨大な木のふもとでのこと。
- ⑮ この木のもとには、天国の住処がある。
- ⑯ アッラーのご命令でスイドラが倒れるのはすさまじい事であり、その何たるかを知るのはアッラーだけである。
- ⑰ 彼(ムハンマド)の目が右左に傾いたわけでも、視界を超えたわけでもない。
- ⑱ ムハンマドは天空へ高められたその夜、主の御力を示す偉大な印を見た。すなわち天国や火獄などを見たのである。
- ⑲ 多神教徒よ、あなたたちがアッラーの他に崇めるこれらの偶像、ラートとウzzaーを見たか。
- ⑳ それから三体のマナートを。あなたたちに益または害をもたらすのかどうか教えてくれたまえ。
- ㉑ 多神教徒よ、あなたたちには好む男子があり、至高なる**かれ**にはあなたたちが嫌う女子があるというのか。
- ㉒ あなたたちが勝手気ままに振り分けるそうした割り当てのなんと罪深いことか。
- ㉓ これらの偶像は意味のない名前に過ぎないのであり、神の性質など少しもない。あなたたちが父祖と共に自分たちで勝手に名付けただけである。アッラーがそれについて明らかな証をもたらされたことはないが、多神教徒は自分たちの思い込みと悪魔が彼らの心の中で美化した我欲に従うばかり。彼らの元には主からのお導きがその預言者の口頭でもたらされたが、彼らが導かれることはなかった。
- ㉔ あるいは、人間には願った通りアッラーに対して偶像の執り成しがあるだろうか。
- ㉕ いや、願った通りのものであるわけではない。アッラーにのみあの世とこの世はあり、お望みのものをそこから与えられ、禁じられるのである。
- ㉖ 諸天にどれほど多くの天使たちがいようと、アッラーが執り成しの許可を与えてくださり、執り成しを与えられる者に満足してくだらない限りは、誰かの執り成しを望んだとしてもその執り成しは何の役に立たない。アッラーは執り成しのために何か別の存在を並べ立てる者のために許可することはなく、アッラーの他に執り成される存在として崇められる者に満足することはないのである。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
 وَالنَّجْمِ إِذَا هَوَىٰ ﴿١﴾ مَا ضَلَّ صَاحِبُكُمْ وَمَا غَوَىٰ ﴿٢﴾ وَمَا يَنْطِقُ عَنِ
 الْهَوَىٰ ﴿٣﴾ إِنْ هُوَ إِلَّا وَحْيٌ يُوحَىٰ ﴿٤﴾ عَلَّمَهُ شَدِيدُ الْقُوَىٰ ﴿٥﴾
 ذُو مِرَّةٍ فَاسْتَوَىٰ ﴿٦﴾ وَهُوَ بِالْأُفُقِ الْأَعْلَىٰ ﴿٧﴾ ثُمَّ دَنَا فَتَدَلَّىٰ ﴿٨﴾
 فَكَانَ قَابَ قَوْسَيْنِ أَوْ أَدْنَىٰ ﴿٩﴾ فَأَوْحَىٰ إِلَىٰ عَبْدِهِ مَا أَوْحَىٰ ﴿١٠﴾
 مَا كَذَبَ الْفُؤَادُ مَا رَأَىٰ ﴿١١﴾ أَفَتَحْمُرُ وَنُهُ عَلَىٰ مَا يَرَىٰ ﴿١٢﴾ وَلَقَدْ رَآهُ
 نَزْلَةً أُخْرَىٰ ﴿١٣﴾ عِنْدَ سِدْرَةِ الْمُنْتَهَىٰ ﴿١٤﴾ عِنْدَ حَاجَتِهَا الْمَأْوَىٰ ﴿١٥﴾
 إِذِ يَعْنَىٰ السِّدْرَةَ مَا يَعْشَىٰ ﴿١٦﴾ مَا زَاغَ الْبَصَرُ وَمَا طَغَىٰ ﴿١٧﴾ لَقَدْ رَأَىٰ
 مِنْ آيَاتِ رَبِّهِ الْكُبْرَىٰ ﴿١٨﴾ أَفَرَىٰ بِئْسَ مِثْقَالُ الذَّرِّ وَالْمُرَىٰ ﴿١٩﴾ وَمَنْوَةٌ
 الثَّلَاثَةُ الْأُخْرَىٰ ﴿٢٠﴾ الْكُفْرُ الذِّكْرُ وَلَهُ الْأَنْثَىٰ ﴿٢١﴾ تِلْكَ إِذَا قَسَمَةٌ
 ضَيْرَىٰ ﴿٢٢﴾ إِنْ هِيَ إِلَّا أَسْمَاءُ سَمَّيْتُمُوهَا أَنْتُمْ وَآبَاؤُكُمْ مَا أَنْزَلَ
 اللَّهُ بِهَا مِنْ سُلْطَانٍ إِنْ يَتَّبِعُونَ إِلَّا الظَّنَّ وَمَا تَهْوَى الْأَنْفُسُ
 وَلَقَدْ جَاءَهُمْ مِنْ رَبِّهِمُ الْهُدَىٰ ﴿٢٣﴾ أَمْ لِلْإِنْسَانِ مَا تَمَنَّىٰ ﴿٢٤﴾ فَلْيَلْهُ
 الْأَخْرَةُ وَالْأُولَىٰ ﴿٢٥﴾ * وَكَمْ مِنْ مَلَكٍ فِي السَّمَوَاتِ لَا تُعْنَىٰ
 سَفَعْتُهُمْ شَيْئًا إِلَّا مِنْ بَعْدِ أَنْ يَأْذَنَ اللَّهُ لِمَنْ يَشَاءُ وَيُرْضَىٰ ﴿٢٦﴾

本諸節の功德:

- 第7天にいても目を逸らすことのなかった預言者の礼節の完全さ。
- 損益をもたらすこともできないものを崇め、自分たちが嫌がるものをアッラーに帰属させ、自分たちの好むものを選別する多神教徒の愚かさ。
- 執り成しは二つの条件を満たさなければ達成されることはない。(神による)執り成す者への許可と執り成される者への満足である。

٣٧ إِنَّ الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ لَيَسْمُونَ الْمَلَائِكَةَ تَسْمِيَةَ الْأُنثَىٰ
 وَمَا لَهُمْ بِهِ مِنْ عِلْمٍ إِن يَتَّبِعُونَ إِلَّا الظَّنَّ وَإِنَّ الظَّنَّ لَا يُعْنِي مِنَ
 الْحَقِّ شَيْئًا ٣٨ فَأَعْرِضْ عَنْ مَنْ تَوَلَّىٰ عَنْ ذِكْرِنَا وَلَمْ يُرِدْ إِلَّا الْحَيَاةَ
 الدُّنْيَا ٣٩ ذَلِكَ مَبْلَغُهُمْ مِنَ الْعِلْمِ إِنَّ رَبَّكَ هُوَ أَعْلَمُ بِمَنْ ضَلَّ عَنْ
 سَبِيلِهِ وَهُوَ أَعْلَمُ بِمَنْ أَهْتَدَىٰ ٤٠ وَلِلَّهِ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَمَا فِي
 الْأَرْضِ لِيَجْزِيَ الَّذِينَ أَسْتَوُوا بَعْمَلُوا وَيَجْزِيَ الَّذِينَ أَسْتَوُوا
 بِالْحَسَنَىٰ ٤١ الَّذِينَ يَجْتَنِبُونَ كَبِيرَ الْإِثْمِ وَالْفَوَاحِشَ إِلَّا اللَّمَمَ
 إِنَّ رَبَّكَ وَاسِعُ الْمَغْفِرَةِ هُوَ أَعْلَمُ بِكُمْ إِذْ أَنْشَأَكُمْ مِنَ الْأَرْضِ
 وَإِذْ أَنْتُمْ أَجْنَتٌ فِي بُطُونِ أُمَّهَاتِكُمْ فَلَا تُزَكُّوْا أَنْفُسَكُمْ هُوَ أَعْلَمُ
 بِمَنْ أَنْتَبَىٰ ٤٢ أَفَرَأَيْتَ الَّذِي تَوَلَّىٰ ٤٣ وَأَعْطَىٰ قَلِيلًا وَأَكْدَىٰ
 ٤٤ عِنْدَهُ عِلْمُ الْغَيْبِ فَهُوَ يُرَىٰ ٤٥ أَمْ لَمْ يُبَيِّنْ لِي مَا فِي صُحُفِ
 مُوسَىٰ ٤٦ وَإِبْرَاهِيمَ الَّذِي وَفَّىٰ ٤٧ أَلَمْ تَرَ وَزْرًا وَرَزَّ آخِرَىٰ
 ٤٨ وَأَنْ لَيْسَ لِلْإِنْسَانِ إِلَّا مَا سَعَىٰ ٤٩ وَأَنْ سَعِيَهُ سَوْفَ يُرَىٰ
 ٥٠ ثُمَّ يُجْزَاهُ الْجَزَاءَ الْأَوْفَىٰ ٥١ وَأَنْ إِلَىٰ رَبِّكَ الْمُنتَهَىٰ ٥٢
 وَأَنَّهُ هُوَ أَضْحَكَكَ وَأَبْكَىٰ ٥٣ وَأَنَّهُ هُوَ أَمَاتٌ وَأَحْيَا ٥٤

- ③7 あの世界での復活を信じない者は、天使のことをアッラーの娘だと思い込んで女性の名前で呼んでいるが、アッラーは彼らの言説とは無縁で超越しておられる。
- ③8 彼らの命名は何か根拠となる知識に基づいているわけではなく、思い込みと嘘に従っているだけである。真理を思い込みで置き換えることなどではしない。
- ③9 だから使徒よ、主を思い起こすことに背を向けて意に留めようとせず、この世しか望まない者からは遠ざかれ。そうした者はあの世界を信じておらず、あの世界のために動くことはない。
- ④0 これらの多神教徒が唱える天使を女性の名で呼ぶことは、無知なため彼らの知識が到達し得る限界である。彼らが確信に至ることはない。使徒よ、本当にあなたの主は誰が真理の道から逸れ、誰が導かれるかを誰よりもご存知であり、**かれ**に不明なことは何一つないのである。
- ④1 天地にあるものは皆、所有も創造も計画もアッラーお独りにのみある。この世で悪い行いをした者にはそれ相応に報いられ、最善の行いを尽くした信者には天国で報いられるためである。
- ④2 (天国で報いられる者とは)大罪から遠ざかり、小さな罪までは無理でも醜い違反から遠ざかる者である。小さな罪はそれらをやめ、善行に励むことで赦されよう。使徒よ、本当にあなたの主はお赦し深い御方であり、いつであれ悔い改めればその罪を赦して下さる。至高なる**かれ**は、あなたたちの状態かつ諸事をあなたたちの父祖アダムを土から創造した時より、またあなたたちが母胎でさまざまな創造の変遷を経ている時より、誰よりもよくご存知であられる。**かれ**に不明なことなど何一つない。だから自分で自分のことを敬虔だなどと褒め称えてはならない。至高なる**かれ**こそが、そのご命令を守り、禁止を避けることで誰が**かれ**のことを意識するかをよりよく知っておられるのである。
- ④3 イスラームに近づいておきながら、それから遠ざかった者の醜い状態を見たことがあるか。
- ④4 少しのお金を与えただけでもうやめてしまう者。吝嗇

(りんしょく)に襲われてしまったためだが、それでもなお自画自賛している。

- ③5 果たして彼のもとには幽玄界の知識があって、それを見ながら話をしているというのか。
- ③6 あるいは彼はアッラーに対してでっち上げを述べているのか。あるいはこの自分勝手なことをアッラーの言葉として騙る者は、アッラーがムーサーに下された初期の啓典について知らされていないのか。
- ③7 主に命じられたことを全て果たし、完全なものとしたイブラーヒームの啓典にも。
- ③8 **かれ**は人間に自分以外の罪を負わせることはない。
- ③9 人間には、自分がなした行いへの報いの他にはない。
- ④0 審判の日には、自分の行いをその目で見ることになるのである。
- ④1 それから自分の行いの報いを欠けることなく受けることになる。
- ④2 使徒よ、あなたの主の御許にこそ、死後の帰り処と行き先はあるのである。
- ④3 また**かれ**はお望みの者を喜ばせ、笑わせ、悲しませ、泣かせる。
- ④4 また**かれ**はこの世で生者を死なせ、復活により死者を生き返らせるのである。

本諸節の功德:

- 罪は大小に分けられる。
- 知りもせずアッラーについて勝手なことを騙ることの危険性。
- 自画自賛の禁止。

وَأَنَّهُ حَقَّ الزَّوْجَيْنِ الذَّكَرِ وَالْأُنثَى ۝٤٥ مِنْ نُطْقَةٍ إِذْ أَنْعَمْتَنِي ۝٤٦ وَأَنَّ عَلَيْهِ النَّشْأَةَ الْأُخْرَى ۝٤٧ وَأَنَّهُ هُوَ أَعْنَى وَأَقْنَى ۝٤٨ وَأَنَّهُ هُوَ رَبُّ الشَّعْرَى ۝٤٩ وَأَنَّهُ أَهْلَكَ عَادًا الْأُولَى ۝٥٠ وَشَمُودَ أَفْجَا ۝٥١ وَقَوْمَ نُوحٍ مِّنْ قَبْلُ إِنَّهُمْ كَانُوا هُمْرًا ظَلَمُوا ۝٥٢ وَأَطَعْنِي ۝٥٣ وَالْمُؤْتَفِكَةَ أَهْوَى ۝٥٤ فَغَشَّيْهَا مَا عَشَى ۝٥٥ فَيَأْتِي آءِ الْآءِ رَبِّكَ تَتَمَارَى ۝٥٦ هَذَا نَذِيرٌ مِّنَ النَّذِرِ الْأُولَى ۝٥٧ أَرَفَتِ الْأَرْزَاقَ ۝٥٨ لَيْسَ لَهَا مِنْ دُونِ اللَّهِ كَاشِفَةٌ ۝٥٩ أَفَمِنَ هَذَا الْحَدِيثِ تَعَجُّبُونَ ۝٦٠ وَتَضْحَكُونَ وَلَا تَبْكُونَ ۝٦١ وَأَنْتُمْ سَمِيدُونَ ۝٦٢ فَاسْجُدُوا لِلَّهِ وَاعْبُدُوا ۝٦٣

سُورَةُ النَّجْمِ ٥٤ آيَاتُهَا ٥٥

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَقْرَبَتْ السَّاعَةَ وَأَنْشَقَّ الْقَمَرَ ۝١ وَإِنْ يَرَوْا آيَةً يُعْرَضُوا وَيَكْفُرُوا ۝٢ سِحْرٌ مُّسْتَمِرٌّ ۝٣ وَكَذَّبُوا وَاتَّبَعُوا أَهْوَاءَهُمْ وَكُلُّ أُمَّرٍ مُّسْتَقَرٌّ ۝٤ وَقَدْ جَاءَهُمْ مِنَ الْأَنْبَاءِ مَا فِيهِ مُرْدَجَرٌ ۝٥ حِكْمَةٌ بَلِغَةٌ فَمَا تُنصِتْنَ ۝٦ فَتَوَلَّ عَنْهُمْ يَوْمَ يَدْعُ الدَّاعُ إِلَى شَيْءٍ نَّكُرٍ ۝٧

- 45) またかれは、男と女の二種類を創造された。
- 46) 精子から、それが子宮に置かれたらである。
- 47) またかれは両者の創造を死後復活のために繰り返される。
- 48) またかれはお望みの者に財産を持たせることで富ませ、人々が貯め込む財産の中から与えられるのである。
- 49) またかれはある多神教徒がアッラーと並び立てて崇める星シリウスの主であらせられる。
- 50) またかれは、かつてフードの民アードを不信仰へのこのだわりのために滅ぼされた。
- 51) またサーリフの民サムードも一人残らず滅ぼされた。
- 52) またアードやサムードの前にヌーフの民も滅ぼされた。本当にヌーフの民はアードやサムードよりも不義をなし、ひどい有様であった。ヌーフが950年もの長きにわたってアッラーだけを崇めるように呼びかけ続けたにもかかわらず、それに応えなかったからである。
- 53) また、ルートの民の村を空に上げてひっくり返し、それから地上に落とした。
- 54) そうして空に上げて地上に落とした後で、石礫で覆ったのである。
- 55) 人間よ、アッラーの御力を示す数々の印のうちの一体どれをもってして議論するというのか。啓発を受けはしないのか。
- 56) あなたたちに遣わされたこの使徒は、以前の使徒たちと変わらない。
- 57) いやいよ審判が近づいてきた。
- 58) アッラーの他には、それをはね除ける者も、覗き見ることが出来る者もない。
- 59) 読み上げられるこのクルアーンがアッラーの御許からもたらされたことに驚くのか。
- 60) 馬鹿にして笑うだけで、その教訓を聴いて涙することはないのか。
- 61) あなたたちはそれを真面目に受け止めず、関心を持たないのか。
- 62) かれにのみ平伏礼をし、真心からの信仰行為を捧げることがよい。

54. 月章(アル・カマル)

マッカ啓示

本章の趣旨:

クルアーンは平易になっており、その中にある様々な印と警告も同様であることを想起すること

説明:

- 1) その時(最後の審判)の到来が近づいた。そうして預言者の時代に月が真二つに割れるという物理的な奇跡が起きた。
- 2) 多神教徒はたとえ彼の正しさを示す明らかな証拠を目にしようとも、それを受け入れようとはせずと言うのである。「我々が見た証拠という証拠は偽りの魔術だ」
- 3) そうして彼らのもとにやって来た真理を否定し、我欲に従ったのである。全てのことは、それが善であれ悪であれ、審判の日には相応しいかたちで実現する。
- 4) 不信仰と不義をやめるに十分なほど、不信仰と不義のせいでアッラーにかつて滅ぼされた共同体の知らせが彼らのもとにはやって来た。
- 5) 彼らのもとにやって来たのは、彼らが言い訳できないようになるための完全なる英知である。アッラーと最後の日信じない民には、警告は役に立たない。
- 6) 使徒よ、彼らが導かれようとしないうら、もう放っておいて背き去るがよい。そしてそれまで被造物が知ることのなかったほどの恐ろしい出来事の到来を角笛で告げる天使が呼びかける日まで待つのだ。

本諸節の功德:

- クルアーンに感化されないことは、不幸な警告を受けるに等しい。
- この世でもあの世でも、我欲に従うことの危険性は明らかである。
- 過去の様々な共同体の破滅に教訓を得ようとしないうら、不信仰者の特徴の一つである。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

٧ خَشَعًا أَبْصَرُهُمْ يَخْرُجُونَ مِنَ الْأَجْدَاثِ كَأَنَّهُمْ جَرَادٌ مُنْتَشِرٌ
 ٨ مُهْطِعِينَ إِلَى الدَّاعِ يَقُولُ الْكٰفِرُونَ هَذَا يَوْمٌ عَسِرٌ ٨ * كَذَبَتْ
 ٩ قِبَلَهُمْ قَوْمٌ نُوْحٌ فَكَذَّبُوا عَبْدَنَا وَقَالُوا مَجْنُونٌ وَازْدَجَرَ ٩ فَدَعَا
 ١٠ رَبَّهُ أَنِّي مَغْلُوبٌ فَانْتَصِرْ ١٠ فَفَتَحْنَا أَبْوَابَ السَّمَاءِ بِمَاءٍ مُنْهَمِرٍ
 ١١ وَفَجَّرْنَا الْأَرْضَ عُيُونًا فَالْتَقَى الْمَاءُ عَلَى أَمْرٍ قَدْ قَدِرَ ١١
 ١٢ وَحَمَلْنَاهُ عَلَى ذَاتِ الْأَلْوَجِ وَدُوسِرٍ ١٢ تَجْرِي بِأَعْيُنِنَا جَزَاءً لِمَن كَانَ
 ١٣ كٰفِرًا ١٣ وَلَقَدْ تَرَكْنَاهُ آيَةً فَهَلْ مِنْ مُدَكِّرٍ ١٣ فَكَيْفَ كَانَ
 ١٤ عَذَابِي وَنُذْرٍ ١٤ وَلَقَدْ يَسَّرْنَا الْقُرْءَانَ لِلذِّكْرِ فَهَلْ مِنْ مُدَكِّرٍ ١٤
 ١٥ كَذَبَتْ عَادٌ فَكَيْفَ كَانَ عَذَابِي وَنُذْرٍ ١٥ إِنَّا أَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ رِيحًا
 ١٦ صٰرِصَةً فِي يَوْمٍ نَحِيسٌ مُسْتَمِرٍّ ١٦ تَنْزِيعِ النَّاسِ كَأَنَّهُمْ أَجْرَارٌ يَخْلِ
 ١٧ مُنْفَعِرٍ ١٧ فَكَيْفَ كَانَ عَذَابِي وَنُذْرٍ ١٧ وَلَقَدْ يَسَّرْنَا الْقُرْءَانَ
 ١٨ لِلذِّكْرِ فَهَلْ مِنْ مُدَكِّرٍ ١٨ كَذَبَتْ ثَمُودُ بِالنُّذْرِ ١٨ فَقَالُوا أَبَشْرًا
 ١٩ مِمَّا وَحَدَّا تَتَّبِعُهُ إِنَّا إِذًا لَفِي ضَلٰلٍ وَسُعُرٍ ١٩ أَهٰ لَقِيَ الذِّكْرَ عَلَيْهِ
 ٢٠ مِنْ بَيْنِنَا بَلْ هُوَ كذٰبٌ أَشْرٌ ٢٠ سَيَعْمُونَ عَدَا مَنِ الْكذٰبِ الْأَشْرُ
 ٢١ إِنَّا مُرْسِلُو النَّاقَةِ فِتْنَةً لَهُمْ فَارْتَبِعْهُمْ وَأَصْطَبِرْ ٢١

- ⑦彼らの視線は恥辱を受けたかのようで、墓から出てイナゴの集団のように清算の場へ急ぐ。
- ⑧その場へと誘う者へ彼らは急いで行き、不信仰者はそこにある厳しい状況と恐怖から言うのである。「この日は何と大変な日だろう」
- ⑨不信仰者が使徒の伝教を拒むことを述べると、彼を励ますためにアッラーはかつて多くの共同体もそれぞれの使徒たちを拒んだことを伝えようと仰せられた。
- ⑩使徒よ、あなたの呼びかけを否定する者の前にもヌーフの民は否定したのだ。彼らはわれらの僕ヌーフを遣わしたときに否定し、彼が伝教をやめないで「彼は狂人だ」と言って罵詈雑言を浴びせたり、脅したりしたのである。
- ⑪ヌーフは主に祈って言った。「私の民に押し負けてしまいそうです。彼らは私の呼びかけに応えようとはしません。あなたが彼らに下す懲罰でお助けください。」
- ⑫そうしてわれらは天の諸門を開き、水を続けざまに降らせた。
- ⑬さらにわれらは地上に泉を湧き出させ、そこから水を溢れさせた。そうして天から降り落ちた水と大地から湧き出た水が時を越えた悠久の彼方に定められたアッラーの命で合わり、アッラーが助けた者以外は皆溺れることとなったのである。
- ⑭われらはヌーフを板と釘でできた船に乗せ、彼とそのそばにいた者を救った。
- ⑮この船は大波に揺られながらも、自らの民に否定され、アッラーの御許からもたらしたものを拒まれたヌーフへの援助として、われらの見守りの中で航海を進めた。
- ⑯彼らを罰したこの懲罰にわれらは訓戒を遣した。果たして教訓を得ようとする者はあるか。
- ⑰真理を否定する者へのわが懲罰はどんなであったか。彼らを破滅させるというわが警告はどんなであったか。
- ⑱われらはクルアーンを訓戒の得やすいものとした。果たしてそこから訓戒を得ようとする者はあるか。
- ⑲アードという民もまた彼らに遣わされた預言者フード

を否定した。マッカの民よ、われの彼らへの懲罰がどんなであったか、彼らへの懲罰でわれが他の者たちにどんな警告をしたかをよく見てみよ。

- ⑲われらは彼らに冷たく激しい風を不幸と凶荒の日に送り、彼らを火獄へ連れ去るまで続かせた。
- ⑳人々が大地から引き抜かれるかのようである。まるで根っこから引き抜かれるナツメヤシの木のように、頭から放り投げられるのであった。
- ㉑マッカの民よ、われの彼らへの懲罰がどんなであったか、彼らへの懲罰でわれが他の者たちにどんな警告をしたかをよく見てみよ。
- ㉒われらはクルアーンを訓戒の得やすいものとした。果たしてそこから訓戒を得ようとする者はあるか。
- ㉓サムードという民もまた彼らの使徒サーリフが警告したものを否定した。
- ㉔彼らは否定しながら言ったのである。「我々と同じ人間に従えというのか。もし我々がこの状態で彼に従ったとしたら、正しい道からは遠く逸脱してしまい、むしろ不幸になってしまうだろう。」
- ㉕啓示が我々全員を差し置いて彼一人だけに特別に下されたというのか。いや、彼は嘘つきで傲慢なだけだ。」
- ㉖彼らはやがて審判の日にサーリフあるいは彼らのどちらが嘘つきで傲慢な者かを知るだろう。
- ㉗われらは彼らを試すために岩からラクダを出して遣わそう。サーリフよ、彼らがすることかつ彼らにされることをよく見て、彼らの妨害に耐え忍ぶがよい。

本諸節の功德:

- 不信仰にこだわり続ける不信仰者に対する祈り(呪い)は許可される。
- 真理を否定する者が滅び、信者が救われるのは、神の摂理である。
- クルアーンは暗記、訓戒、教訓のために容易なものとした。

- ⑤0 われらが何かを望んだときは一言、「あれ」と言うだけで望んだものが瞬きの如く立ちどころにある。
- ⑤1 われらは過去の数々の共同体で不信仰においてあなたたちと似た者を確かに殲滅した。果たしてそれで教訓を得て不信仰から足を洗おうとする者はあるか。
- ⑤2 人間が行うことは全て守護天使の書に記されており、取りこぼすことは何もない。
- ⑤3 大小全ての行いは、行いの記録書かつ守護された碑板に記されており、それ相応の報いを受けるのである。
- ⑤4 主のご命令に従い、禁止を避けることで主を意識する者は、様々な庭園や流れる川の数々を楽しむだろう。
- ⑤5 罪も不毛な話もない真実の言葉のみが交わされる集会の中、全てを所有する王の御許でかれからの永続的な恩恵について、彼らが何を得られるかなど尋ねるではない。

وَمَا أَمْرُنَا إِلَّا وَاحِدَةٌ كَلَمْحٍ بِالْبَصَرِ ۝ وَقَدْ أَهْلَكْنَا
 أَشْيَاءَكُمْ فَهَلْ مِنْ مَّدَكِرٍ ۝ وَكُلُّ شَيْءٍ فَعَلُوهُ فِي الزُّبُرِ
 ۝ وَكُلُّ صَغِيرٍ وَكَبِيرٍ مُسْتَطَرٌ ۝ إِنَّ الْمَتَّقِينَ
 فِي جَنَّاتٍ وَنَهَرٍ ۝ فِي مَقْعَدِ صِدْقٍ عِنْدَ مَلِكٍ مُّقْتَدِرٍ ۝

سُورَةُ الرَّحْمٰنِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الرَّحْمٰنِ ۝ عَلِمَ الْفُرْقَانَ ۝ خَلَقَ الْاِنْسَانَ ۝ عَلَّمَهُ الْبَيَانَ ۝
 الشَّمْسُ وَالْقَمَرُ مُجْسَبَانِ ۝ وَالنَّجْمُ وَالشَّجَرُ يَسْجُدَانِ ۝
 وَالسَّمَاءُ رَفَعَهَا وَوَضَعَ الْمِيزَانَ ۝ اَلَّا تَطْغَوْا فِي الْمِيزَانِ ۝
 وَاَقِيمُوا الْوَزْنَ بِالْقِسْطِ وَلَا تُخْسِرُوا الْمِيزَانَ ۝ وَالْاَرْضَ
 وَضَعَهَا لِلْاَنْعَامِ ۝ فِيهَا فَاكِهَةٌ وَالنَّخْلُ ذَاتُ الْاَكْمَامِ ۝
 وَالْحَبُّ ذُو الْعَصْفِ وَالرَّيْحَانُ ۝ فَبِآيِءِ الْاٰءِ رَبِّكَ مَا تَكْذِبَانَ
 ۝ خَلَقَ الْاِنْسَانَ مِنْ صَلْصَلٍ كَالْفَخَّارِ ۝ وَخَلَقَ الْجَانَّ مِنْ
 مَّارِجٍ مِنْ نَّارٍ ۝ فَبِآيِءِ الْاٰءِ رَبِّكَ مَا تَكْذِبَانَ ۝ رَبُّ
 الْمَشْرِقَيْنِ وَرَبُّ الْمَغْرِبَيْنِ ۝ فَبِآيِءِ الْاٰءِ رَبِّكَ مَا تَكْذِبَانَ ۝

الميزان
٥٤

55. 慈悲深き者章(アッ・ラハマーン)

マディーナ啓示

本章の趣旨:

ジンと人間に、彼らの糧の源は見えようが見えまいがアッラーしかないことを知らしめること、そして明白なアッラーの印やこの世とあの世における明瞭なかれのお慈悲の跡を知らしめること。

説明:

- ① 広大なお慈悲を持つ慈悲深き御方。
- ② 覚えやすく、意味のわかりやすいものとしてクルアーンを人々に教えられた。
- ③ 人間を健やかに創造され、その姿形を美しいものとした。
- ④ どうやって気持ちを表すか、発話かつ筆記で明らかにする術を教えた。
- ⑤ 太陽と月はかれが定め、完全な計算に基づいて動いている。

ている。人間が年月や算術を知ることができるようにするためである。

- ⑥ 茎のない植物や木々も至高のアッラーに平伏し、忠実に服従している。
- ⑦ そして空を地上高く持ち上げて天蓋とされ、大地には正義を定められ、人間にそれ(互いに公平であること)を命じられた。
- ⑧ 人々よ、かれが正義を定められたのは、あなたたちが不正を働かないため、そして計量時に騙さないためである。
- ⑨ ものを量るときには公平にし、他者のために計量する際に秤を少なくしてはならない。
- ⑩ また大地を被造物が定住しやすいうようにされた。
- ⑪ そこには実りをつける木々があり、そこにはナツメヤシの実をつけるナツメヤシの木がある。
- ⑫ またそこには小麦や大麦のようにもみ殻のある粒や香料とする植物もある。
- ⑬ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。
- ⑭ **かれ**はアダムを陶土のようにサラサラとした乾いた土から創造された。
- ⑮ そしてジンの親玉を煙のうちの混じり気のない炎から創造された。
- ⑯ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。
- ⑰ 冬と夏の太陽の両東と両西の主であらせられる。
- ⑱ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

本諸節の功德:

- 行いは大小全て行いの記録書に記される。
- 慈悲深き御方がその恩恵の言及をクルアーンから始められたのは、クルアーンの榮譽を示し、被造物にとってクルアーンがいかに大きな恵みであるかを示唆するものである。
- イスラームにおける公平さの地位。
- アッラーの様々な恩恵は、私たち人間をしてそれらを認め、感謝すべきものであり、否定して恩を忘れることではない。

مَرَجَ الْبَحْرَيْنِ يَلْتَقِيَانِ ﴿١٦﴾ بَيْنَهُمَا بَرْزَخٌ لَا يَبْغِيَانِ ﴿١٧﴾ فَيَأْتِيءَ الْآءِ
 رَيْكُمَا تُكْذِبَانِ ﴿١٨﴾ يَخْرُجُ مِنْهُمَا اللُّؤْلُؤُ وَالْمَرْجَانُ ﴿١٩﴾ فَيَأْتِيءَ الْآءِ
 رَيْكُمَا تُكْذِبَانِ ﴿٢٠﴾ وَهُوَ الْجَوَارِ الْمُنشَآتُ فِي الْبَحْرِ كَالْأَعْلَامِ ﴿٢١﴾
 فَيَأْتِيءَ الْآءِ رَيْكُمَا تُكْذِبَانِ ﴿٢٢﴾ كُلُّ مَنْ عَلَيْهَا فَانٍ ﴿٢٣﴾ وَيَبْقَى وَجْهُ
 رَبِّكَ ذُو الْجَلَالِ وَالْإِكْرَامِ ﴿٢٤﴾ فَيَأْتِيءَ الْآءِ رَيْكُمَا تُكْذِبَانِ ﴿٢٥﴾
 يَسْأَلُهُ مَنْ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ كُلَّ يَوْمٍ هُوَ فِي شَأْنٍ ﴿٢٦﴾ فَيَأْتِيءَ
 الْآءِ رَيْكُمَا تُكْذِبَانِ ﴿٢٧﴾ سَنَفَعُ لَكُمْ أَيُّهُ الثَّقَلَانِ ﴿٢٨﴾ فَيَأْتِيءَ
 الْآءِ رَيْكُمَا تُكْذِبَانِ ﴿٢٩﴾ يَمَعَشِرَ الْجِنَّ وَالْإِنْسِ إِنْ أَسْتَطَعْتُمْ
 أَنْ تَنْفُذُوا مِنْ أَقْطَارِ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ فَانْفُذُوا وَلَا تَنْفُذُونَ
 إِلَّا بِإِذْنِ رَبِّكُمْ فَمَا تَتَصَوَّرُونَ ﴿٣٠﴾ فَيَأْتِيءَ الْآءِ رَيْكُمَا تُكْذِبَانِ ﴿٣١﴾
 يُرْسِلُ عَلَيْكُمْ
 شَوَاظِقَ مِنْ نَارٍ وَفُجَارًا تَتصَوَّرُونَ ﴿٣٢﴾ فَيَأْتِيءَ الْآءِ رَيْكُمَا
 تُكْذِبَانِ ﴿٣٣﴾ فَإِذَا أَنْشَقَّتِ السَّمَاءُ فَكَانَتْ وَرْدَةً كَالدِّهَانِ
 ﴿٣٤﴾ فَيَأْتِيءَ الْآءِ رَيْكُمَا تُكْذِبَانِ ﴿٣٥﴾ فَيَوْمَئِذٍ لَا يُسْأَلُ عَنْ
 ذَنْبِهِ إِنْسٌ وَلَا جَانٌ ﴿٣٦﴾ فَيَأْتِيءَ الْآءِ رَيْكُمَا تُكْذِبَانِ ﴿٣٧﴾
 يَعْرِفُ الْمَجْرُمُونَ بِسِيمَاهُمْ فَيُؤْخَذُ بِالنَّوَاصِي وَالْأَقْدَامِ ﴿٣٨﴾

⑱ アッラーは二つの海を塩水と真水とで混ぜ、目に見えるかたちで合わさるようにした。

⑲ 二つの間にはそれぞれが侵食しないように壁があり、真水は真水のまま、塩水は塩水のまま保たれる。

⑳ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

㉑ 二つの海の全てから大小の真珠が出てくる。

㉒ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

㉓ 至高の**かれ**にのみ海を走る山のような船を操ることができるのである。

㉔ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

㉕ 地上の生きとし生けるものは全て必ず滅びる。

㉖ 使徒よ、恵み深く最善を尽くして下さる偉大なあなたの主の御顔は残り、決して消滅することはないのである。

㉗ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

㉘ 諸天にいる天使や大地にいるジンと人間全てが**かれ**に己の必要を乞う。毎日**かれ**は生死や糧を与えるなど、僕たちの諸事を司っておられる。

㉙ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

㉚ 人間とジンよ、**われら**はあなたたちの行いを清算し、報奨または懲罰の相応しいもので全てに報いるだろう。

㉛ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

㉜ アッラーは審判の日にジンと人間を集めて言われるだろう。「ジンと人間の集団よ、天地のどこかに出口を見つけられるなら、そうするがよい。だがそんなことは力と証明がなければできないわけがなく、あなたたちの一体どこにそれがあるというのか。」

㉝ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

㉞ 人間とジンよ、**われら**はあなたたちに煙のない混じり気なしの炎や炎のない煙を送るが、あなたたちにはそれを遮ることはできない。

㉟ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

㊱ 天使たちの降臨により空が切り裂かれると、その輝きは脂のように赤くなる。

㊲ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

㊳ その偉大な日には、人間もジンも罪を問われることはない。アッラーは彼らの行いを知っておられるからである。

㊴ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

㊵ 罪人たちは審判の日に黒い顔と蒼ざめた目という印で知られる。彼らは前髪を掴まれて足元を引き寄せられ、火獄に放り込まれるのである。

本諸節の功德:

● 海水と真水が混ざり合わないように接し合う様は、アッラーの御力の証である。

● 全ての被造物が消え行く中で、至高のアッラーだけが永続するのは、僕たちの人間にとって気にかけるべきはアッラーの他にはないという奨励である。

● 比喩や類例なしにアッラーには相応しい御顔がある。

● 不信仰者には、様々な懲罰がある。

فِي أَيِّ ءِالَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٤٣﴾ هَذِهِ جَهَنَّمُ الَّتِي يُكَذِّبُ بِهَا
 الْمَجْرُمُونَ ﴿٤٤﴾ يَطُوفُونَ فِيهَا وَبَيْنَ حَمِيمٍ ءِانِ ﴿٤٥﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ
 رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٤٦﴾ وَلَمَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِ جَنَّاتٍ ﴿٤٧﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا
 تُكَذِّبَانِ ﴿٤٨﴾ ذَوَاتَا أَفْنَانٍ ﴿٤٩﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ
 ﴿٥٠﴾ فِيهِمَا عَيْنَانِ تَجْرِيَانِ ﴿٥١﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ
 ﴿٥٢﴾ فِيهِمَا مِنْ كُلِّ فَاكِهَةٍ زَوْجَانِ ﴿٥٣﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ
 ﴿٥٤﴾ مُتَّكِئِينَ عَلَى فُرُشٍ بَطَاطُهَا مِنْ أَسْتَبْرَقٍ وَجَنَى الْجَنَّتَيْنِ دَانٍ
 ﴿٥٥﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٥٦﴾ فِيهِمْ قَصْرٌ مِّنَ الظَّرْفِ
 لَمْ يَطْمِثْهُنَّ أُنْسٌ قَبْلَهُمْ وَلَا جِآنٌ ﴿٥٧﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ
 ﴿٥٨﴾ كَأَنَّهُنَّ الْيَاقُوتُ وَالْمَرْجَانُ ﴿٥٩﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ
 ﴿٦٠﴾ هَلْ جَزَاءُ الْإِحْسَنِ إِلَّا الْإِحْسَنُ ﴿٦١﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا
 تُكَذِّبَانِ ﴿٦٢﴾ وَمِنْ دُونِهِمَا جَنَّاتٌ ﴿٦٣﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا
 تُكَذِّبَانِ ﴿٦٤﴾ مُدْهَامَتَانِ ﴿٦٥﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ
 ﴿٦٦﴾ فِيهِمَا عَيْنَانِ نَضَّاخَتَانِ ﴿٦٧﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٦٨﴾
 فِيهِمَا فَاكِهَةٌ وَنَخْلٌ وَرُمَّانٌ ﴿٦٩﴾ فَيَأْتِي ءِالَاءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٧٠﴾

④③ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一
 体どれを否定するのか。

④④ 彼らには非難の声が上がるだろう。「これこそこの世
 で罪人が否定していた火獄である。もはや目の前の真実
 を否定できまい。」

④⑤ 彼らはその間と猛烈に熱い熱湯の間を行き来するの
 である。

④⑥ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一
 体どれを否定するのか。

④⑦ あの世界で主の御前に立つのを恐れ、信じて善行を行
 う者には、二つの楽園がある。

④⑧ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一
 体どれを否定するのか。

④⑨ これらの二つの楽園には、立派な木々が生い茂り、ま
 ばゆいほどの実がなっている。

④⑩ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一
 体どれを否定するのか。

④⑪ その二つの楽園には、水の流れる二つの泉がある。

④⑫ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一
 体どれを否定するのか。

④⑬ そこには、楽しむことのできる果物全てが二種類ずつ
 ある。

④⑭ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一
 体どれを否定するのか。

④⑮ 内側が重厚な絹地でできた寝床に横たわりつつ、そ
 の二つの楽園では立っいても座っいても、横たわっ
 ても、手を伸ばせばすぐにもぎ取れるほど果実が近
 いところにある。

④⑯ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一
 体どれを否定するのか。

④⑰ そこには自分の夫にしか視線を向けない女性がい
 る。彼女たちには、人間であれジンであれ、それぞれの
 夫が触れる前に触れた者はいない。

④⑱ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一
 体どれを否定するのか。

④⑲ 彼女たちはその美しさと純粋さのあまり、まるでルビ
 ーや赤珊瑚のようである。

④⑳ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

④㉑ 主にお仕えするうえで誠意を尽くした者にとっての報奨が、アッラーの良き報奨の他にあり得るだろうか。

④㉒ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

④㉓ これら二つの楽園の他にも二つの楽園がある。

④㉔ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

④㉕ それらは青々と緑が生い茂っている。

④㉖ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

④㉗ その二つの楽園には、水が溢れんばかりの泉が二つあり、尽きることなく滾々(こんこん)と湧き出ている。

④㉘ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

④㉙ その二つの楽園には、たくさんの果実と大きなナツメヤシの木、そしてザクロがある。

④㉚ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。

本諸節の功德:

●アッラーへの恐れの大切さとその御前に立つ戦慄を思い描くこと。

●天国の女性が貞淑さで称えられているのは、貞淑さが女性的美徳である証である。

●報いは、その行いと同種のものより来る。

فِيهِنَّ خَيْرَاتٌ حَسَانٌ ﴿٧٠﴾ فَيَأْتِيءُ الْآءَ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ
 ﴿٧١﴾ حُورٌ مَّقْصُورَاتٌ فِي الْخِيَامِ ﴿٧٢﴾ فَيَأْتِيءُ الْآءَ رَبِّكُمَا
 تُكَذِّبَانِ ﴿٧٣﴾ لَمْ يَطْمِثْهُنَّ إِنْسٌ قَبْلَهُمْ وَلَا جَانٌّ ﴿٧٤﴾ فَيَأْتِي
 الْآءَ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٧٥﴾ مُتَّكِعِينَ عَلَى رَفْرَفٍ خُضِرٍ
 وَعَبَقَرِيِّ حَسَانٍ ﴿٧٦﴾ فَيَأْتِيءُ الْآءَ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ﴿٧٧﴾
 تَبَارَكَ اسْمُ رَبِّكَ ذِي الْجَلَالِ وَالْإِكْرَامِ ﴿٧٨﴾

سُورَةُ الْوَاقِعَةِ
 ٧٨ آيات

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا وَقَعَتِ الْوَاقِعَةُ ﴿١﴾ لَيْسَ لَوْعَتِهَا كَأَذَىٰ ﴿٢﴾ خَافِضَةٌ رَّافِعَةٌ
 ﴿٣﴾ إِذَا رَجَّتِ الْأَرْضُ رَجًّا ﴿٤﴾ وَبَسَّتِ الْجِبَالُ بَسًّا ﴿٥﴾ فَكَانَتْ
 هَبَاءً مُّثْبَثًا ﴿٦﴾ وَكُنْتُمْ أَزْوَاجًا ثَلَاثَةً ﴿٧﴾ فَأَصْحَابُ الْمَيْمَنَةِ
 مَا أَصْحَابُ الْمَيْمَنَةِ ﴿٨﴾ وَأَصْحَابُ الْمَشْأَمَةِ مَا أَصْحَابُ
 الْمَشْأَمَةِ ﴿٩﴾ وَالسَّيِّدُونَ السَّيِّدُونَ ﴿١٠﴾ وَأُولَئِكَ الْمَقَرُّونَ ﴿١١﴾
 فِي جَنَّاتٍ التَّعْبِيرِ ﴿١٢﴾ ثَلَاثَةٌ مِنَ الْأُولَىٰ ﴿١٣﴾ وَقَلِيلٌ مِنَ الْآخِرِينَ ﴿١٤﴾
 عَلَىٰ سُرُرٍ مَّوْضُونَةٍ ﴿١٥﴾ مُتَّكِعِينَ عَلَيْهَا مُتَقَابِلِينَ ﴿١٦﴾

56. 出来事章(アル・ワーキア)

マッカ啓示

本章の趣旨:

復活の日における僕たちの状態の説明

説明:

- ① 審判の日が確かに起こったなら、
- ② この世で真理を否定したように否定しうる魂は一つとしてないだろう。
- ③ (その審判の日という出来事は)罪深い不信仰者を火獄に入れることで貶めるものだが、一方では主を意識する信者を天国に入れることで高めるものでもある。
- ④ 大地が激しく揺れ動くとき、
- ⑤ 山という山が粉々に砕け散り、
- ⑥ ばらばらの塵屑(ちりくず)となって、
- ⑦ あなたたちはその日三種類に分けられる。
- ⑧ 右手の民とは、己の記録書を右手で受け取る者であり、その位階のなんと高貴なことよ。
- ⑨ 左手の民とは、己の記録書を左手で受け取る者であり、その位階のなんと惨めで酷いことよ。
- ⑩ 生前この世で善行を率先して行っていた者は、あの世で率先して天国に入ることができる。
- ⑪ 彼らこそ、アッラーの御許で側近とされる者である。
- ⑫ 彼らは恩恵の天国の中、多種多様な恩恵を楽しんでいる。
- ⑬ この共同体と過去の共同体の一集団である。
- ⑭ 審判の日を恐れさせ、それが確実に起こること、その日における多様な人々の分類とそれぞれの報いを明らかにすること。
- ⑮ 金で刺繍(ししゅう)された寝台の上で
- ⑯ その寝台に横たわりつつお互いに顔を向き合わせ、誰も首元を見ることはない。

本諸節の功德:

- アッラーの恩恵や印を思い起こすことは、アッラーを称え、忠実にお仕えしようとする気持ちにつながる。
- 審判の日の光景を目の当たりにさせることで、不信仰者の真理拒絶を断つことができる。
- 生前の行いの違いで、天国の民の位階も違ったものとなる。

- ⑩ これらの数々の樂園には、立ち居振る舞いの洗練された美しい女性たちがいる。
- ⑪ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。
- ⑫ 天幕の中で守られている天女たち。
- ⑬ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。
- ⑭ 彼女らには、それぞれの夫以前にいかなる人間やジンも触れたことはない。
- ⑮ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。
- ⑯ 緑色のクッションと心地よい敷物に横たわる。
- ⑰ ジンと人間の集団よ、アッラーの多様な恩恵のうち一体どれを否定するのか。
- ⑱ 偉大かつ善良で恩恵に寛大なあなたの主の御名は高められ、祝福を増すのである。

يَطُوفُ عَلَيْهِمْ وِلْدَانٌ مُّخَلَّدُونَ ﴿١٧﴾ يَا كُوفٍ وَابَارِيقٍ وَكَأْسٍ مِنْ مَعِينٍ
 لَا يَصُدُّونَ عَنْهَا وَلَا يَنْزِفُونَ ﴿١٨﴾ وَفَلَكَهَاتِمَمَّا يَتَخَيَّرُونَ ﴿١٩﴾
 وَلَحْمِ طَيْرٍ مِمَّا يَشْتَهُونَ ﴿٢٠﴾ وَحُورٍ عِينٍ ﴿٢١﴾ كَأَمْثَلِ اللَّوْلُؤِ
 الْمَكْنُونِ ﴿٢٢﴾ جَزَاءً لِمَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٢٣﴾ لَا يَسْمَعُونَ فِيهَا لَغْوًا
 وَلَا تَأْتِيهِمْ إِلَّا قِيلًا سَلَامًا سَلَامًا ﴿٢٤﴾ وَأَصْحَابُ الْيَمِينِ مَا أَصْحَابُ
 الْيَمِينِ ﴿٢٥﴾ فِي سِدْرٍ مَخْضُودٍ ﴿٢٦﴾ وَطَلْحٍ مَنضُودٍ ﴿٢٧﴾ وَظِلِّ مَمْدُودٍ ﴿٢٨﴾
 وَمَاءٍ مَسْكُوبٍ ﴿٢٩﴾ وَفَلَكَهَاتِمَكَبِيرٍ ﴿٣٠﴾ لَا مَقْطُوعَةٍ وَلَا مَمْنُوعَةٍ ﴿٣١﴾
 وَفُرُشٍ مَرْفُوعَةٍ ﴿٣٢﴾ إِنَّا أَنشَأْنَهُمْ إِنِشَاءً ﴿٣٣﴾ فَجَعَلْنَهُمْ أَجْرًا ﴿٣٤﴾
 عُرْبًا أَقْرَابًا ﴿٣٥﴾ لِأَصْحَابِ الْيَمِينِ ﴿٣٦﴾ ثَلَاثَةٌ مِنْ الْأُولَى ﴿٣٧﴾
 وَثَلَاثَةٌ مِنَ الْآخِرِينَ ﴿٣٨﴾ وَأَصْحَابُ الشِّمَالِ مَا أَصْحَابُ الشِّمَالِ ﴿٣٩﴾
 فِي سَمُورٍ وَحَمِيمٍ ﴿٤٠﴾ وَظِلِّ مَنْ يَحْمُورِ ﴿٤١﴾ لَا بَارِدٍ ﴿٤٢﴾
 وَلَا كَرِيمٍ ﴿٤٣﴾ إِنَّهُمْ كَانُوا قَبْلَ ذَلِكَ مُتْرَفِينَ ﴿٤٤﴾ وَكَانُوا
 يُصْرُونَ عَلَى الْهَنْتِ الْعَظِيمِ ﴿٤٥﴾ وَكَانُوا يَقُولُونَ أَيُّدَا مَتَنَا وَكُنَّا
 تَرَابًا وَعِظْمًا أَيُّدَا لَمَبْعُوثُونَ ﴿٤٦﴾ أَوَّءَ آبَاؤُنَا الْأَوَّلُونَ ﴿٤٧﴾ قُلْ إِنَّ
 الْأُولَى وَالْآخِرِينَ ﴿٤٨﴾ لَمَجْمُوعُونَ إِلَى مِيقَاتِ يَوْمٍ مَعْلُومٍ ﴿٤٩﴾

- ①7 彼らの世話をすべく、老いて朽ちることのない少年が歩き回る。
 ①8 取っ手のない杯や取っ手のついた水差し、それから尽きることのない天国の酒の入った杯を持って彼らのそばを歩き回るのである。
 ①9 この世の酒のようではなく、飲んでも悪酔いすることも理性を失うこともない。
 ②0 これらの少年は彼らが選ぶ果物を持って歩き回り、
 ②1 食欲をそそる鳥肉を持って歩き回る。
 ②2 また、彼らには天国で美しい大きな瞳をした女性がいる。
 ②3 まるで貝殻で守られた真珠のようである。
 ②4 彼らが生前この世で行った善行への報奨としてあるのである。
 ②5 天国では、下品な話も話せば話し手の罪となるようなことも聞かないで済む。
 ②6 彼らが聞くのは、天使たちの平安の挨拶と、(天国の民が)お互いに交し合う平安の挨拶だけである。
 ②7 啓典に誓約した人々とは、それにアッラーの元での最高の位置と重要性を与える人であること
 ②8 棘のない、害のない杉の木があり、
 ②9 幾重にも実の連なったバナナもあり、
 ③0 消えることのない広大な陰があり、
 ③1 尽きない水が流れている。
 ③2 数えきれないほどの果物もあり、
 ③3 それらがなくなることはない。旬の季節があるわけでもなく、いつ何時も彼らが望んで手に入らないことはない。
 ③4 高々と上げられた寝床に、
 ③5 われらは言及された天女を前例のないかたちで新たに創り、
 ③6 触れられたことのない処女とし、
 ③7 夫に対して愛情深く、互いに同い年とした。
 ③8 われらが彼女らを創ったのは、幸福の印として右手で連れ行かれる右手の民のためであり、
 ③9 彼らは過去の預言者たちの共同体に属する一団と、

④0 最後の共同体であるムハンマドの共同体の一団である。

④1 左側の人とは、啓典を左に置いて、最悪の状況と悪い先行きの人たちである。

④2 激しい熱風と熱湯の中、

④3 黒煙の陰の中、

④4 心地よくはない砂嵐と美しくはない光景、

④5 彼らはその懲罰に達する前は生前この世で数々の恩恵に浴していたが、欲を満たすことしか関心を持たなかった。

④6 また彼らはアッラーへの信仰を拒み、かれ以外の偶像を崇めることにこだわった。

④7 また彼らは復活を否定し、嘲りながら言うのだった。「我々が死んで土にかえり、朽ちた骨となった後で復活させられるというのか。」

④8 「我々以前に死んでいった先祖も蘇らせられるのか。」

④9 使徒よ、これらの復活を否定する者に言いなさい。「人々のうち、先達も後代の者たちも、

⑤0 審判の日には必ず(生前の行いの)清算と応報のために集められるのである。

本諸節の功德:

- 善行はあの世での恩恵を得るきっかけである。
- 贅沢と享楽は罪に陥る原因である。
- 罪をわざと犯し続けるのは危険である。

ثُمَّ إِنَّمَا يُرِيدُ اللَّهُ لِيُذْهِبَ عَنْكُمُ الرِّجْسَ أَجْمَعِينَ ٥١
 فَالَّذِينَ هُمْ عَنْ آلِهَتِهِمْ كَارِهِونَ ٥٢
 فَذَرُونَهَا الْبَطُونَ ٥٣
 فَذَرُونِى مِنَ الْحَمِيمِ ٥٤
 شَرِبَ الْهَيْمِ ٥٥
 هَذَا نَزَلْنَاهُ لِقَوْمِ الَّذِينَ ٥٦
 لَمْ يَكُنْ لَكُمْ قُلُوبٌ فَكَلِمَاتٌ ٥٧
 أَقْرَبُ يَسْمَعُ مَا تُنْمُونُ ٥٨
 أَنْتُمْ تَخْلُقُونَهُ وَأَمْرٌ لَكُمْ ٥٩
 الْخَلْقُونَ ٦٠
 فَخُنْ قَدَرًا بَيْنَكُمْ الْمَوْتَ وَمَا تَحْنُ بِمَسْبُوقِينَ ٦١
 عَلَى أَنْ يُبَدَّلَ أَمْثَلَكُمْ وَنُنشِئَكُمْ فِى مَا لَا تَعْلَمُونَ ٦٢
 وَلَقَدْ عَلِمْتُمُ النَّشْأَةَ الْأُولَىٰ فَالْوَلَاتِ تَذَكَّرُونَ ٦٣
 أَقْرَبُ يَسْمَعُ مَا تَحْرُثُونَ ٦٤
 أَنْتُمْ تَرْزَعُونَهُ وَأَمْرٌ لَكُمْ الزَّرْعُونَ ٦٥
 لَوْ نَشَاءُ لَجَعَلْنَاهُ حُطَمًا فَظَلَمْتُمْ تَفَكَّهُونَ ٦٦
 إِنَّا الْمَعْرُومُونَ ٦٧
 بَلْ لَحْنٌ مَحْرُومُونَ ٦٨
 أَقْرَبُ يَسْمَعُ الْمَاءَ الَّذِى تَشْرَبُونَ ٦٩
 أَنْتُمْ أَنْزَلْتُمُوهُ مِنَ الْمُزْنِ أَمْ لَكُمْ الْمُنزِلُونَ ٧٠
 لَوْ نَشَاءُ جَعَلْنَاهُ أَجَاجًا فَالْوَلَىٰ تَشْكُرُونَ ٧١
 أَقْرَبُ يَسْمَعُ النَّارَ الَّتِى تُوْرُونَ ٧٢
 أَنْتُمْ أَنْشَأْتُمْ شَجَرَتَهَا أَمْ لَكُمْ الْمُنْشِئُونَ ٧٣
 لَمْ يَكُنْ لَكُمْ الْغَيْبُونَ ٧٤
 فَسَبِّحْ بِاسْمِ رَبِّكَ الْعَظِيمِ ٧٥
 فَلَا أَقْسَمُ بِمَوْقِعِ الْجُورِ ٧٦
 وَإِنَّهُ لَفَسْمٌ لَوْ تَعْلَمُونَ عَظِيمٌ ٧٧

- 51 正しい道から離れて復活を否定する虚偽の人々は、
- 52 審判の日にはあなたたちはザクームの木の実という最も醜悪なものを食べることになるのだ。
- 53 それでその苦い木の実で空っぽのお腹を満たすことになる。
- 54 そこで飲めるのは猛烈に熱い熱湯だけ。
- 55 病で喉を乾かしたラクダがむさぼり飲むように飲むだろう。
- 56 述べられたこの苦い食べ物と熱湯が、報いの日に待ち受けている彼らのためのもてなしなのである。
- 57 真理を否定する者よ、あなたたちを無から創造したのはわれらである。それでもわれらがあなたたちの死後復活させるのを信じないのか。
- 58 人々よ、あなたたちが妻の子宮に放出する精子を見たことはあるか。
- 59 その精子をつくるのはあなたたちだろうか、それともわれらだろうか。
- 60 われらがあなたたちの間における死を定めたのである。皆それぞれに寿命があり、それより早まることも遅れることもない。われらは不能ではないのである。
- 61 あなたたちの知る今の姿かたちを取り換え、あなたたちの全く知らない姿に創りあげることできる。
- 62 われらがあなたたちを最初の創造でどのように創ったかはわかっているだろう。最初にあなたたちを創った存在は、死後も復活させられるというのがわからないのか。
- 63 あなたたちが地上でまく種を見たことがあるか。
- 64 それらの種を芽吹かせるのはあなたたちだろうか、それともわれらだろうか。
- 65 もしわれらが望めば、それらの農作物をあと少しで熟して収穫できるところで粉々にすることもできるのだ。そうすればあなたたちは、見舞われた災難を前に呆然とするだけである。
- 66 あなたたちは言うだろう。「費やしたものが台無しになるなんて、我々に罰が当たったのだ。」
- 67 それどころか、我々には糧が禁じられてしまったのだ。」
- 68 喉が渴いたときにあなたたちが飲む水を見たことがあるか。
- 69 雲から雨を降らせたのはあなたたちだろうか、それともわれらだろうか。
- 70 もしわれらが望めば、それらの水を飲み水にも作物への水遣りにも役に立たない塩辛いものとすることもできる。あなたたちへの慈悲として飲みやすい真水にしてもらえたことをアッラーに感謝しようとはしないのか。
- 71 あなたたちが様々な用途のために灯す火を見たことがあるか。
- 72 火種とする木を創ったのはあなたたちだろうか、それともあなたたちへの優しさとしてそれらをもたらしたわれらだろうか。
- 73 われらはこの火をあの世の業火を思い起こさせるものとしてあらしめ、あなたたちのうち旅をする者のために役立つものとした。
- 74 だから使徒よ、あなたの偉大な主をかれに似つかわしくない全てのものとは無縁な存在として称えよ。
- 75 アッラーは星の位置にかけて誓いを立てられた。
- 76 これらの位置にかけての誓いのすごさを知っていたなら、本当にそれは数えきれないほどの教訓や印に満ちたすごいものである。

本諸節の功德:

- 最初の創造を通した復活の容易さの立証は明白である。
- 降水や農作物の成長や火といった人間が様々な用途で役立てるものは、アッラーに感謝すべき恩恵である。アッラーはいつでもお望みの時にそれらを取り上げてしまわれることもできるのだから。
- 惑星は降雨に影響を与えると信じるのは不信仰であり、イスラーム以前の時代の慣習である。

إِنَّهُ وَلَقَدْ آتَىٰكَ كَرِيمٌ ﴿٧٧﴾ فِي كِتَابٍ مَّكْنُونٍ ﴿٧٨﴾ لَا يَمَسُّهُ إِلَّا
 الْمُطَهَّرُونَ ﴿٧٩﴾ تَنْزِيلٌ مِّن رَّبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٨٠﴾ أَفِي هَذَا الْحَدِيثِ
 أَنْتُمْ مُدْهَمُونَ ﴿٨١﴾ وَتَجْعَلُونَ رِزْقَكُمْ أَكْثَرًا تُكذِّبُونَ ﴿٨٢﴾ فَلَوْلَا
 إِذَا بَلَغَتِ الْحُلُقُومَ ﴿٨٣﴾ وَأَنْتُمْ حِينِيذٍ تَضُرُّونَ ﴿٨٤﴾ وَنَحْنُ أَقْرَبُ
 إِلَيْهِ مِنْكُمْ وَلَكِن لَّا تُبْصِرُونَ ﴿٨٥﴾ فَلَوْلَا إِنْ كُنْتُمْ غَيْرَ مَدِينِينَ
 ﴿٨٦﴾ تَرْجِعُونَهَا إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٨٧﴾ فَأَمَّا إِنْ كَانَ مِنَ الْمُقَرَّبِينَ
 ﴿٨٨﴾ فَرَوْحٌ وَرَيْحَانٌ وَجَنَّتْ نَعِيمٌ ﴿٨٩﴾ وَأَمَّا إِنْ كَانَ مِنْ أَصْحَابِ
 الْمِحْمِيزِ ﴿٩٠﴾ فَسَلَمٌ لَّكَ مِنْ أَصْحَابِ الْيَمِينِ ﴿٩١﴾ وَأَمَّا إِنْ كَانَ مِنَ
 الْمُكذِّبِينَ الضَّالِّينَ ﴿٩٢﴾ فَنَزَلُ مِنَ حَمِيمٍ ﴿٩٣﴾ وَتَصْلِيَةٌ جَعِيمَةٍ
 ﴿٩٤﴾ إِنْ هَذَا إِلَّا هُوَ حَقُّ الْيَقِينِ ﴿٩٥﴾ فَسَبِّحْ بِاسْمِ رَبِّكَ الْعَظِيمِ ﴿٩٦﴾

سُورَةُ الرَّافِعَةِ ﴿٥٧﴾
 بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
 سَبِّحْ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿١﴾ لَهُ مَلَكُ
 السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ يُحْيِي وَيُمِيتُ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٢﴾ هُوَ
 الْأَوَّلُ وَالْآخِرُ وَالظَّاهِرُ وَالْبَاطِنُ وَهُوَ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿٣﴾

- ⑨3 その者を待ち受けるもてなしは煮えたぎる熱湯であり、
- ⑨4 火獄の業火で焼かれることとなる。
- ⑨5 使徒よ、本当にわれらがあなたに語ったこれは、疑いなき真理である。
- ⑨6 だからあなたの偉大な主の御名を称え、欠陥からはかけ離れた清き御方とせよ。

- ⑦7 人々よ、読み上げられるこのクルアーンは、高貴な書であり、多種多様なご利益があるのだ。
- ⑦8 人間の目には届かない、守護された碑版に守られた書である。
- ⑦9 それに触れることができるのは、罪や欠点のない清らかな天使だけである。
- ⑧0 生きとし生けるものの主からその預言者ムハンマドに啓示されたもの。
- ⑧1 多神教徒よ、この話をあなたたちは否定して信じようとはしないのか。
- ⑧2 数々の恩恵を与えてくださったことへのアッラーへの感謝をあなたたちはかれへの否定とし、「あの星やその星のおかげで雨が降った」と言って雨の恵みを星のおかげとするのか。
- 復活の根拠をいくつか述べられると、人間には死を防ぐことができない点を示しつつ、かれには容易に繰り返すことができ、死なすことができる存在は生かすこともできるのを知らしめようとされたのである。
- ⑧3 さあ、いざ魂が喉元にまで達したら、
- ⑧4 その時あなたたちは目の前で自分の魂が抜け出ていく様を見るだろう。
- ⑧5 われらは知識と力と天使によって死の間際にあるあなたたち自身よりもあなたたちに近いが、あなたたちがそれらの天使を見ることはない。
- ⑧6 さあ、もしあなたたちが思い込んでいるように行いへの報いのために復活させられることはないというのなら、
- ⑧7 もしあなたたちが正しいのなら、死ぬときに出ていくこの魂を戻してみるがよい。だがそれはできないだろう。
- ⑧8 だがもし故人が率先して善行に勤しむ者だったなら、
- ⑧9 それ以降疲れはない憩いがあり、よい糧やお慈悲、欲しいものは何でも得られる天国が与えられよう。
- ⑨0 故人が右手の民の一人であったなら、心配することはない。彼らには平安と安全がある。
- ⑨1 だが故人が使徒のもたらしたものを否定する、正道を踏み誤った者の一人であったなら、

57. 鉄章(アル・ハディード)

マディーナ啓示

本章の趣旨:

信仰とアッラーの道に支出することについての、精神的な向上

説明:

- ① 天地の生きとし生けるものはアッラーを完全無欠な存在として称える。かれは威力並びない無敵の御方であり、誰もかれを打ち負かすことはできない。その創造と計画において英明な御方であられる。
- ② かれにのみ天地の王権があり、お望みの者を生かし、お望みの者を死なせる。かれは万能な御方であり、どんなものもかれを遮ることはできない。
- ③ かれこそはその前に何も無い最初の存在であり、その後にも何も無い最後の存在であり、その上にも何も無い顕現者にして、その内にも何も無い内奥者かつ全てのことを知る存在であって、かれが見逃すことは何も無い。

本諸節の功德:

- 死の眩暈の激しさとそれを払いのけることのできない人間の無能さ。
- 基本的に、アッラーが何らかの英知のために見せられる他は、人間に天使を見ることはできない。
- 「最初の者、最後の者、顕現者、内奥者」というアッラーの御名前前の数々は、アッラーへの尊崇の念を高め、万事アッラーに見られているという気持ちを高めるものである。

هُوَ الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ فِي سِتَّةِ أَيَّامٍ ثُمَّ اسْتَوَىٰ
 عَلَى الْعَرْشِ يَعْلَمُ مَا يَلِجُ فِي الْأَرْضِ وَمَا يَخْرُجُ مِنْهَا وَمَا يَنْزِلُ مِنَ
 السَّمَاءِ وَمَا يَعْرُجُ فِيهَا وَهُوَ مَعَكُمْ أَيْنَ مَا كُنْتُمْ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ
 بَصِيرٌ ﴿٤﴾ لَهُ مَلِكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَإِلَى اللَّهِ تُرْجَعُ الْأُمُورُ
 ﴿٥﴾ يُولِجُ اللَّيْلَ فِي النَّهَارِ وَيُؤَلِّجُ النَّهَارَ فِي اللَّيْلِ وَهُوَ عَلِيمٌ بِذَاتِ
 الصُّدُورِ ﴿٦﴾ آمَنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ وَأَنْفِقُوا مِمَّا جَعَلَكُمْ
 مُسْتَحْلِفِينَ فِيهِ فَالَّذِينَ آمَنُوا مِنْكُمْ وَأَنْفَقُوا لَهُمْ أَجْرٌ كَبِيرٌ ﴿٧﴾
 وَمَا لَكُمْ لَا تُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ وَالرَّسُولِ يَدْعُوكُمْ لِنُؤْمِنُوا بِرَبِّكُمْ وَقَدْ
 أَخَذَ مِيثَاقَكُمْ إِنْ كُنْتُمْ مُؤْمِنِينَ ﴿٨﴾ هُوَ الَّذِي يُنَزِّلُ عَلَى عَبْدِهِ
 آيَاتٍ بَيِّنَاتٍ لِيُخْرِجَكُمْ مِنَ الظُّلُمَاتِ إِلَى النُّورِ وَإِنَّ اللَّهَ بِكُمْ
 لَرَؤُوفٌ رَحِيمٌ ﴿٩﴾ وَمَا لَكُمْ أَلَّا تُنْفِقُوا فِي سَبِيلِ اللَّهِ وَلِلَّهِ مِيرَاثُ
 السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ لَا يَسْتَوِي مِنْكُمْ مَنْ أَنْفَقَ مِنْ قَبْلِ الْفَتْحِ
 وَقَتْلَ أَوْلِيَاءِكِ أَعْظَمَ دَرَجَةً مِنَ الَّذِينَ أَنْفَقُوا مِنْ بَعْدِ وَقَتْلَوْا
 وَكَلَّا وَعَدَّ اللَّهُ الْحُسْنَىٰ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ﴿١٠﴾ مَنْ ذَا
 الَّذِي يَقْرِضُ اللَّهَ قَرْضًا حَسَنًا فَيُضْعِفُهُ لَهُ، وَهُوَ وَاللَّهُ أَجْرُ كَرِيمٌ ﴿١١﴾

④ **かれ**こそは天地を日曜日で始まり金曜日で終わる6日で創造された御方。**かれ**はそれらを瞬きよりもわずかな時間で創造できる。それから至高の**かれ**は玉座のうえに完全無欠な**かれ**に相応しい高みに上げられた。**かれ**は大地に染る雨や種などを知り、大地から出る植物や鉱物なども知り、天から降る雨や啓示などや、天に昇る天使、それから僕たちの行いやその魂を知っておられる。人々よ、**かれ**はあなたたちがどこにいてもその知識によってあなたたちと共におられ、**かれ**に不明なことは何一つない。アッラーはあなたたちのしていることを見ておられ、**かれ**に不明なことは何一つなく、行いに応じて報いられるのである。

⑤ **かれ**にのみ天地の王権はあり、**かれ**にのみ諸事は帰り行く。そうして**かれ**は審判の日に被造物をそれぞれの行いに応じて報いられるのである。

⑥ **かれ**が夜を昼に入れることで暗闇がもたらされ、人間は寝ることができる。また**かれ**が昼を夜に入れることで光がもたらされ、人間は仕事に赴くことができる。**かれ**はその僕たちの胸中にあるものを知っておられ、何一つ不明なことはない。

⑦ アッラーとその使徒を信じ、アッラーがあなたたちを権利の代行者とされた財産を費やし、**かれ**が定めた方法にのっとって使うがよい。あなたたちのうちアッラーを信じて**かれ**のために自分の財産を費やす者には、**かれ**の御許における天国という偉大な報奨がある。

⑧ あなたたちをアッラーへの信仰から妨げるものは何か。あなたたちが至高の主を信じるようになるのを願って使徒が呼びかけているというのに。あなたたちが信者ならば、アッラーがあなたたちを祖父の腰元から取り出したときに**かれ**を信じるよう誓約を交わしたはずである。

⑨ **かれ**こそはその僕ムハンマドにあなたたちを不信仰の闇から信仰と知識の光へと導き出すために、明らかな印を下した御方。本当に**かれ**はあなたたちのもとへ導き手かつ吉報の伝達者としてご自分の預言者を遣わされた、哀れみ深く慈悲深い御方であられる。

⑩ あなたたちをアッラーのための施しから妨げるものは何か。アッラーにこそ天地は相続されるのである。信者よ、マッカ開城の前からアッラーのお悦びを求めてアッラーのために施し、イスラームを支えるために不信仰者と戦った者が、マッカ開城の後でそうした者と等しいなどということはない。マッカ開城の前からアッラーのために施し、戦った者は、その後でそうした者よりもアッラーの御元における地位は高いのである。アッラーは双方に天国を約束してくださった。アッラーはあなたたちの行いを熟知しておられ、何一つ不明なことはなく、行いに応じて報いられるのである。

⑪ アッラーのために気持ちよく財を施す者は誰か。そうすればアッラーはその者が費やした分の何倍もの報奨を与えて下さり、審判の日にも天国というよい報奨があるだろう。

本諸節の功德:

- 財産はアッラーの財であり、人間はそれを委託されているに過ぎない。
- 信者の位階は、信仰と善行への率先励行により異なる。
- アッラーのための施しは、財産の祝福と増大をもたらすきっかけとなる。

يَوْمَ تَرَى الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ يَسْعَى نُورُهُمْ بَيْنَ أَيْدِيهِمْ
 وَبِأَيْمَانِهِمْ بُشْرَانُكَ يَوْمَ جَنَّتٍ تَجْرَى مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ
 فِيهَا ذَلِكَ هُوَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ﴿١٣﴾ يَوْمَ يَقُولُ الْمُنْفِقُونَ وَالْمُنْفِقَاتُ
 لِلَّذِينَ ءَامَنُوا انظُرُوا وَانفَتِيسَ مِنْ نُورِكُمْ قِيلَ ارْجِعُوا وَرَاءَكُمْ
 فَالْتَمِسُوا نُورًا فَضُرِبَ بِيَدِهِمْ بُسُورٌ لَهُ بَابٌ بَاطِنُهُ فِيهِ الرَّحْمَةُ
 وَظَاهِرُهُ مِنْ قِبَلِهِ الْعَذَابُ ﴿١٤﴾ ينادونَهُمْ لِمَ تَكُنْ مَعَكُمْ قَالُوا لَيْلٍ
 وَلَيْكِنَّا فَتِنْتُمْ أَنْفُسَكُمْ وَتَرَبَّصْتُمْ وَارْتَبْتُمْ وَغَرَّتْكُمُ الْأَمَانِيُّ
 حَتَّى جَاءَ أَمْرُ اللَّهِ وَغَرَّكُمْ بِاللَّهِ الْغُرُورُ ﴿١٥﴾ فَأَلْيَوْمَ لَا يُؤْخَذُ مِنْكُمْ
 فِدْيَةٌ وَلَا مِنَ الَّذِينَ كَفَرُوا مَأْوَىٰكُمْ النَّارُ هِيَ مَوْلَىٰكُمْ
 وَيَسَّسَ الْمَصِيرُ ﴿١٦﴾ * أَلَمْ يَأْنِ لِلَّذِينَ ءَامَنُوا أَنْ تَخْشَعَ
 قُلُوبُهُمْ لِذِكْرِ اللَّهِ وَمَا نَزَلَ مِنَ الْحَقِّ وَلَا يَكُونُوا كَالَّذِينَ
 أُوتُوا الْكِتَابَ مِنْ قَبْلُ فَطَالَ عَلَيْهِمُ الْأَمَدُ فَقَسَتْ قُلُوبُهُمْ وَكَثِيرٌ
 مِنْهُمْ فَاسِقُونَ ﴿١٧﴾ أَعْمَأُوْا أَنَّ اللَّهَ يُحْيِي الْأَرْضَ بَعْدَ مَوْتِهَا قَدْ بَيَّنَّا
 لَكُمُ الْآيَاتِ لَعَلَّكُمْ تَعْقِلُونَ ﴿١٨﴾ إِنَّ الْمَصْدِقِينَ وَالْمَصْدَقَاتِ
 وَأَفْرُضُوا لِلَّهِ قَرْضًا حَسَنًا يَضَعُفَ لَهُمْ وَلَهُمْ أَجْرٌ كَرِيمٌ ﴿١٩﴾

⑬信者が男女ともに、自らの光がその眼前や右側を先導するのを見る日、彼らには言われるのだ。「今日あなたたちには、城下や木々の下を川が流れる楽園に永遠にいられるという吉報がある。その報奨こそは、それ以上ない偉大な勝利なのだ。」

そうしてアッラーはその日の信者の状態を述べられた後、偽信者の状態を述べるために仰せられた。

⑭偽信者が男女ともに信者に、「橋を渡る助けとなるあなたたちの光にあやかれるよう私たちのほうを見てくれ」と言う日、彼ら偽信者には嘲笑うようにこう言われるのだ。「自分の後ろ側に戻って光を求めればよいだろう。」すると彼らの間には壁が置かれ、その壁には扉があり、信者に接した内側には慈悲が、偽信者に接した外側には懲罰がある。

⑮偽信者は信者にこう言って呼びかけるのだ。「私たちもあなたたちと共にイスラームに従っていたではないか。」だが、そこでムスリムは答えるだろう。「確かにあなたたちは私たちと共にいたが、あなたたちは自分を偽善で災いに陥れ、破滅してしまったのだ。あなたたちは信者が負けるのを待ちわび、不信仰を宣言してアッラーの信者へのお助けや死後の復活を疑った。死の訪れがあるまで偽りの野心に騙され、アッラーに対して悪魔に唆されてしまったのだ。」

⑯偽信者よ、今日アッラーの懲罰を受けなくて済むようになる贖いはない。アッラーへの不信仰を宣言した者から受け入れられるような贖いはなく、あなたたちと不信仰者の行き先は火獄であって、その方があなたたちに相応しく、お似合いである。なんとおぞましい行く末よ。

⑰アッラーとその使徒を信じる者には、そろそろ至高のアッラーを思い起こすことやクルアーンで啓示された約束や警告で心が柔らかくなり、安らぐようになったのでは

ないか。律法を与えられたユダヤ教徒や福音書を与えられたキリスト教徒のように、心を頑なにさせてはならない。時代を経て預言者が遣わされる間隔が広がったために彼らの心は頑なになってしまい、多くの者がアッラーに背くようになってしまった。

⑱アッラーは大地が涸いた後で芽吹かせることによって生き返らせるのを知るがよい。人々よ、あなたたちがアッラーの御力と唯一性について考えられるように、**われら**は様々な証拠を明らかにした。大地を死んだ後で生き返らせることのできる御方はあなたたちを死後に復活させることもでき、頑なになった心を柔らかくすることもできるのがわかるだろう。

⑲自分の財産の一部を恩着せがましい態度や相手の気持ちに害することなく快く施す男女には、その行いへの報奨が倍増される。一つの善行が十倍から七百倍にも、それ以上にも倍加され、それに加えてアッラーの御許における天国という素晴らしい報奨があるのである。

本諸節の功德:

- 信者には目前や右側を先導する光をお与えになるというアッラーの恩恵。
- 違反や偽善は、審判の日における暗闇と破滅の原因である。
- 信者に復活への疑念を植え付けようとし、期待に欺かれ、悪魔に唆されるのは、偽信者の特徴である。
- 心の頑迷さにつながる不注意・無関心の危険性。

19 アッラーとその使徒たちを分け隔てなく信じる者こそが誠実な者である。また、殉教者には、主の御許で特別に用意された素晴らしい報奨があり、審判の日には目の前や右側を先導する己の光があるだろう。だが、アッラーとその使徒たちを信じよとせず、**われら**が使徒に啓示した章句を否定する者は火獄の民であり、審判の日にはそこに永遠に留まり、出られないのである。

20 この世の暮らしは身体が遊ぶ戯れ、心が楽しむ享楽、着飾る装飾、権勢の誇り合い、富や子孫の数で見栄を張り合うことに過ぎないということを知るがよい。それはまるで、雨によって育った植物に喜ぶ農民のようなもの。緑の植物はやがて枯れ、黄色くなり、アッラーによって散り散りにされてしまう。あの世では不信仰者や偽信者に激しい懲罰があり、信者たるアッラーの僕たちに罪のお赦しとお悦びがある。所詮この世の暮らしは、定まることのない過ぎ行く楽しみに過ぎないのだ。あの世の恩恵よりもこの世の享楽を優先させる者は、騙された損失者なのである。

21 人々よ、悔悟や犠牲の施しなど、罪の贖いとなる善行に勤しむがよい。あなたたちはそれによって天地ほどの楽園を得られるだろう。この楽園はアッラーが**かれ**とその使徒たちを信じる者に用意されたものである。そうした報奨はアッラーがお望みの者に与えられるものであり、至高のアッラーは信者たる僕たちに広大な恩恵を与えられる御方であられる。

22 早魘(かんばつ)などの地上における災難や人間自身に降りかかる災難は、**われら**が被造物を創造する前に守られた碑版に定められていることであり、アッラーにとっては容易いことである。

23 人間よ、それはあなたたちが失ったものや得たもので過度に悲しんだり喜んだりしないためである。本当にアッラーは、与えられた恵みで傲慢に威張る者がお嫌いである。

24 費やすべきものを出し惜しみ、他の人にも出し惜しみを勧める者は損失者である。アッラーへの忠義から背く者がアッラーを害することはなく、自分自身を害するだけである。本当にアッラーは満ち足りた御方であり、僕たちの忠義を必要とされることなく、どんな状態であれ称えられる御方。

本諸節の功德:

- この世とその様々な欲望から身を律することやあの世とその永久の恩恵を望むよう奨励することは、正道を歩む助けとなる。
- 定命への信仰は必須である。
- 定命への信仰の利点の一つ、それはこの世にかかわるものを失ったときにも悲しまないで済むことである。
- 吝嗇とその奨励は、信者には似つかわしくない卑しい性質である。

وَالَّذِينَ آمَنُوا بِاللَّهِ وَرُسُلِهِ أُولَٰئِكَ هُمُ الصَّٰدِقُونَ وَالشَّٰهَدَاءُ
عِنْدَ رَبِّهِمْ لَهُمْ أَجْرُهُمْ وَنُورُهُمْ وَالَّذِينَ كَفَرُوا وَكَذَّبُوا
بِعَٰيَتِنَا أُولَٰئِكَ أَصْحَابُ الْجَحِيمِ ﴿٥٧﴾ أَعْلَمُوا أَنَّمَا الْحَيٰوةُ
الدُّنْيَا لَعِبٌ وَلَهُمْ زِينَةٌ وَتَفَٰخُرٌ بَيْنَكُمْ وَتَكَاثُرٌ فِي الْأَمْوَالِ
وَالْأَوْلَادِ كَمَثَلِ غَيْثٍ أَعْجَبَ الْكُفَّارَ نَبَاتُهُ ثُمَّ يَهِيجُ فَتَرَاهُ
مُصْفَرًا ثُمَّ يَكُونُ حُطَمًا وَفِي الْآخِرَةِ عَذَابٌ شَدِيدٌ وَمَغْفِرَةٌ
مِّنَ اللَّهِ وَرِضْوَانٌ وَمَا الْحَيٰوةُ الدُّنْيَا إِلَّا لَٰمَتَمَّعَ الْعُرُورِ ﴿٥٨﴾
سَابِقُوا إِلَىٰ مَغْفِرَةٍ مِّن رَّبِّكُمْ وَجَنَّةٍ عَرْضُهَا عَرْضُ السَّمَآءِ
وَالْأَرْضِ أُعِدَّتْ لِلَّذِينَ آمَنُوا بِاللَّهِ وَرُسُلِهِ ذَٰلِكَ فَضْلُ
اللَّهِ يُؤْتِيهِ مَن يَشَآءُ وَاللَّهُ ذُو الْفَضْلِ الْعَظِيمِ ﴿٥٩﴾ مَا أَصَابَ
مِن مُّصِيبَةٍ فِي الْأَرْضِ وَلَا فِي أَنفُسِكُمْ إِلَّا فِي كِتَابٍ مِّن
قَبْلِ أَن نَّبْرَأَهَا إِنَّ ذَٰلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرٌ ﴿٦٠﴾ لِكَيْلَا
تَأْسَوْا عَلَىٰ مَا فَاتَكُمْ وَلَا تَفْرَحُوا بِمَا آتَاكُمْ وَاللَّهُ
لَا يُحِبُّ كُلَّ مُخْتَالٍ فَخُورٍ ﴿٦١﴾ الَّذِينَ يَبْخَلُونَ وَيَأْمُرُونَ
النَّاسَ بِالْبَخْلِ وَمَن يَتَوَلَّ فَإِنَّ اللَّهَ هُوَ الْعَنِيُّ الْحَمِيدُ ﴿٦٢﴾

لَقَدْ أَرْسَلْنَا رُسُلَنَا بِالْبَيِّنَاتِ وَأَنْزَلْنَا مَعَهُمُ الْكِتَابَ
وَالْمِيزَانَ لِيَقُومَ النَّاسُ بِالْقِسْطِ وَأَنْزَلْنَا الْحَدِيدَ فِيهِ
بَأْسٌ شَدِيدٌ وَمَنْفَعٌ لِلنَّاسِ وَلِيَعْلَمَ اللَّهُ مَنِ يَنْصُرُهُ وَرُسُلَهُ
بِالْغَيْبِ إِنَّ اللَّهَ قَوِيٌّ عَزِيزٌ ﴿٥٤﴾ وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا نُوحًا وَإِبْرَاهِيمَ
وَجَعَلْنَا فِي ذُرِّيَّتِهِمَا النُّبُوَّةَ وَالْكِتَابَ فَمِنْهُمْ مُهْتَدٍ
وَكَثِيرٌ مِّنْهُمْ فَاسِقُونَ ﴿٥٥﴾ ثُمَّ قَفَّيْنَا عَلَىٰ آثَرِهِم
بِرُسُلِنَا وَقَفَّيْنَا بِعِيسَى ابْنِ مَرْيَمَ وَآتَيْنَاهُ الْإِنْجِيلَ وَجَعَلْنَا
فِي قُلُوبِ الَّذِينَ اتَّبَعُوهُ رَأْفَةً وَرَحْمَةً وَرَهْبَانِيََّةً
أَتَدْعُوهَا مَا كَتَبْنَاهَا عَلَيْهِمْ إِلَّا ابْتِغَاءَ رِضْوَانِ اللَّهِ
فَمَنْ عَمَّا حَقَّ رِعَابِهَا فَآتَيْنَا الَّذِينَ ءَامَنُوا مِنْهُمْ أَجْرَهُمْ
وَكَثِيرٌ مِّنْهُمْ فَاسِقُونَ ﴿٥٦﴾ بَيِّنَاتٍ لِّلَّذِينَ ءَامَنُوا أَنَّهُ
وَءَامَنُوا بِرُسُولِهِ يُؤْتِيكَمُ كُفْلًا مِّن رَّحْمَتِهِ وَيَجْعَل لَّكُمْ نُورًا
تَمْشُونَ بِهِ وَيَغْفِرَ لَكُمْ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿٥٧﴾ لِّئَلَّا يَعْلَمَ
أَهْلَ الْكِتَابِ إِلَّا يَقْدِرُونَ عَلَىٰ شَيْءٍ مِّن فَضْلِ اللَّهِ وَأَنَّ
الْفَضْلَ بِيَدِ اللَّهِ يُؤْتِيهِ مَن يَشَاءُ وَاللَّهُ ذُو الْفَضْلِ الْعَظِيمِ ﴿٥٨﴾

⑤④ われらは数々の明白な証拠や啓典と共に使徒たちを遣わし、人々の間を公平に裁くための秤をもたらした。また、われらは武器作りや人々の産業に役立つ強力な鉄をもたらした。それはアッラーがその僕たちにも明らかなたちで、目にしたことのないかれを援助する僕が誰かを知らしめるためである。本当にアッラーは無敵で強力な御方であり、できないことは何もない。

⑤⑤ われらはヌーフとイブラーヒームを遣わし、彼らの子孫に預言者としての使命を与え、啓典を下した。二人の子孫の中には、正道へ導かれた者もあれば、成功の恵みを受けた者もあるが、多くの者がアッラーへの忠義の道からは逸れてしまったのもまた事実である。

⑤⑥ それからわれらは使徒を続けて共同体に遣わした。われらはマルヤムの子イーサーを福音書と共に遣わし、彼を信じて従った者たちの心に温情と慈悲をもたらしたため、お互いに愛し合い慈しみ合うこととなったが、信仰において逸脱し極端に走ってしまった。そうして彼らはアッラーの許可された結婚やこの世の楽しみをわれらが求めてもいないのに放棄してしまい、信仰における逸脱として己に課すようになって、われらが求めたアッラーのお悦びにかなうことには従わなかったのである。われらは彼らの中で信じる者に報奨を与えるが、多くの者はかれの使徒ムハンマドがもたらしたものを否定することでアッラーへの忠義から離れてしまった。

⑤⑦ アッラーを信じ、その教えにのっとって行動する者よ、ご命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識して、その使徒を信じるのだ。あなたたちがムハンマドを信じ、それ以前の使徒たちを信じることで二つの報奨を与えていただけるだろう。そしてこの世での人生を導いてくれ、審判の日に橋を照らしてくれる光を与えて下さり、罪を咎めることなく覆い隠して赦して下さい。至高のアッラーは何度も赦して下さい慈悲深い御方なのである。

⑤⑧ 信者よ、われらはあなたたちのために用意した、倍加された報奨という偉大な恩恵を明らかにした。ユダヤ教徒やキリスト教徒といった啓典の民にも、アッラーの恩恵を前に好き勝手に与奪を操ることができるわけではなく、恩恵を与えられるのは至高のアッラーだけであり、お望みの者にその恩恵を与えられるのだということがわかるように、である。アッラーこそは、お望みの僕に特別な恩恵を与えられる偉大な恩恵の持ち主である。

本諸節の功德:

- 真理には必ずそれを守り、広める力がある。
- 天啓の教えにおける公平さの重要性は明らかである。
- 信仰深く敬虔な人との血縁は、血縁者本人に信仰がない限り何の役にも立たない。
- 宗教における逸脱行為の禁止。